

【 第 2 回中標津町総合発展計画審議会報告 】

日時：令和 2 年 12 月 10 日（木）13：30～14：35

場所：ウエディングプラザ寿宴 大ホール

出席者：審議会委員 16 名、

コンサルタント 1 名（(株)ぎょうせい）（Zoom 会議により）、事務局 6 名

傍聴者：3 名



<会議次第>

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議 題

- (1) これまでの経過について
- (2) 中標津町まちづくり町民会議の基本構想に対する意見について
- (3) 今後のスケジュールについて

- 4 閉 会

<配布資料>

- ・資料 1 これまでの経過及び今後のスケジュールについて
- ・資料 2 基本構想検討資料（施策の大綱）

<会議結果報告>

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議題

- (1) これまでの経過について

※企画課 伊與部係長より、資料に基づき説明（資料 1）

- (2) 中標津町まちづくり町民会議の基本構想に対する意見について

※企画課 伊與部係長より、資料に基づき説明（資料 2）

委 員：基本構想の中で北方領土問題が入っていない。これからも空路墓参に行くことが続くと思うし、今年はコロナにより上空慰霊が行われている。北方領土問題も総合計画の中に入れながら、考えればと思っている。来年外国人学校ができ、その中にロシア人の募集も入っており、それを考えながらまちづくりを進めるのが良いと思う。

事務局：今の2つの意見を踏まえ、基本目標については幅広い表現としており、なるべく様々な意見が拾えるようにしている。具体的施策については、さらに列挙して表現させていただくことを根源として考えている。こちらの分野に入れるかも含め検討させていただきたい。

委員：P27の「つながりが未来を築く協働のまちづくり」のところだが、4行目に町内会加入率改善に向けと具体的に書かれているが、町内会と入れてしまうと限定的な目標設定になってしまうのではないかと。町内会が駄目という話しではないが、それ以外の団体等の加入によっても、ある程度問題は解決すると思う。歴史的に加入率は低下していくと思う。あえて枠組みに縛られる必要はないのではないかと。

事務局：町内会加入率と記載したのは、町民会議で中標津町は特に低い状況であり、そのようなところから出てきた経緯もある。町内会加入率は「つながる」という枠組みの中でもひとつでしかないというのはご発言の通りであるが、もっと全体的に地域コミュニティの醸成など上の行で包括的に記載している。具体的に記載するかについては検討させていただきたい。

委員：P3の酪農景観を生かした「魅せる農業」は理解できるが、目標を掲げるからには、農業関係の団体等の理解を得た上で、協力してもらうということが方針の中に掲げられていないといけないので、その裏付けが必要ではないかと。P19の「信頼できる町立病院を目指し」とあるが、これは何か。今信頼できていないのか。病院経営、赤字の問題と混ざっているのではないかと。病院関係者がみて大丈夫なのか。

事務局：1点目の酪農景観を生かした魅せる農業の実現は、具体的には酪農体験などより多くの農業に関する情報発信をするという意見から出てきた部分である。実現できるのかということだが、記載しているから必ずやらなければならないという段階ではない。今後、もう少し中身を精査しながら、審議会と町民会議、役場職員を含めた合同会議の中で精査していきたいと思う。現時点では、町民会議でこのような方向に進んでもらいたいという意見の段階である。関係機関と合意形成を図りながら実現性を検討したいと考えている。2点目の信頼できる町立病院という記載であるが、町民会議の意見として、信頼できる町立病院を目指して欲しいという意図がある。ここに記載することが良いのかという話しもあるので、違う表現にできないかということは考えさせていただきたい。

委員：農業関係の部分では、農業関係者との協力がないと難しいと思う。農業関係者との協力を重視していただきたい。町立病院は、経営内容と分けて考えなければならないと思う。信頼がないから赤字経営になっているのとは少し違うと思う。信頼ができれば黒字になるのかということになると思うので、表現を考えていただきたい。

事務局：町民会議の意見としては、病院が提供するサービスについても、もう少し向上できるのではないかと趣旨も含んでいる。ただ、それをそのまま出すのかということもあるので、書き方については考えさせていただきたい。

委員：P3の農業について環境問題というものが出てくると思う。それを含めた施策をしなければならぬと思う。景観と環境は違うので、環境の方に少し表現をしてもらいたい。特に糞尿対策のところは大事ではないかと感じた。P27の町内会加入率の問題であるが、この中に町内会との連携を図るとあるが、町内会との連携を図っても加入率は上がらない。町民に意識を持ってもらい、大事だと思わないと町内会の加入率は上がらない。そこはきちんと把握してほしいと思う。

事務局：1点目については、景観だけでなく環境も守る。元々は記載も検討していたが、すべてを記載すると読みにくくなってしまうので、削った部分もある。そのようなことも読み取れる文章にしたいと考える。2点目の町内会加入率の手法については、連携を図るだけでなく、意識づけの問題もあるとのことなので、検討させていただきたい。

委員：今さらながら申し訳ないが、自助、共助という言葉が出ているが、各文章が何々を目指しますという誓いの文章のようである。この文章というのは、町が住民に対し、行政はこういうことをするという誓いの言葉ということなのか。それだけであるのならば、では行政でやってということでは終わってしまうのではないか。子どものことについては、行政が何をやってもらうということだけでなく、身近な大人や住民が参加して、努力をして、自助、共助につながるようなことがもっとあれば良いなとこの文章を読んで思った。

事務局：総合発展計画であるが、行政だけが守る計画ではなく、すべての人の指針であるので、行政だけが守る内容として整理しているものではない。こちらの文章をもって、町民に協力してもらえるのかということになるが、目指すべきことを記載した上で、さらに協働としてどのようなことを町民がすべきなのかということをも7期の中では検討していきたいと思う。

委員：P19の安心と生きがいを感じるまちづくりで、子育て支援が他の項目に比べて短めだと思う。中標津の子育て支援はかなり脆弱と思っており、子どもの送り迎えやバスを手配するなどが無い。他の町と比べてもかなり厳しいなと思っていたので、町としても重点的に対応していただければと思う。

事務局：この文章だとかなり薄く見えてしまっているが、下の町民会議の意見の2行目で、支え合い、助け合う住民参加による住民福祉体制作りと、もっと幅広く対応すべきという意見があり、この2行の文章を上にも組み込んで整理すべきと事務局で整理し直しているところである。

委員：P11の「郷土愛を深め残りたい、戻りたい中標津」とあるが、様々な施策をして、残りたい、戻りたいとなるのが郷土愛になると思う。町民会議の意見で、大人の郷土愛を深めるようにという意見があったが、深めるべきものではなく、結果として深まっていくようにすることなのかと感じている。

事務局：最終的に郷土愛という言葉で締めているが、残りたい、戻りたいための施策として、特色ある学校教育や地域と連携した学校教育など、子ども達が学校だけで学ぶのではなくて、地域の人と関わりながら町の良さを知ってもらうなど、そのよ

うな取組みを深めていきながら、郷土愛につながって、残りたい、戻りたいまち
という思いを持ってもらえるのではないかと組み立てになっている。

委員：抽象的で申し訳ないが、この計画を作り始めて、初めて人口が減少する問題があるのではないかと思う。それに対する対策など、そのようなところにも配慮があると良いと思う。

事務局：人口減少に対する部分であるが、町民会議の中では人口推計等議論しながら、どのような施策が必要なのかということも踏まえた上で、この文章に至ったところである。具体的に人口減少に対応した部分もあるが、前面に出ていないところも確かにあると思う。ただ、基本的な考え方として、人口減少対策として何ができるかというところでの町民会議としては、つながっていくこと、雇用を生むこと、中標津に戻ってきてもらうなど、そのようなことが必要ではないかというところから、随所に散らしている。具体的施策に関しては、今後総合計画の基本計画を作っていく中で、皆様に参加していただく総合戦略策定委員会の中において、今までの施策を検証した上で、具体的な施策は何を行うべきか、また、どの程度の人口を目指していくのかなどを含めて、今後具体的に議論をさせていただきたいと考えている。その過程で、文章を直した方が良いという部分も出てくる可能性もあるので、今後の進め方でご理解いただけたらと思う。

（３）今後のスケジュールについて

※企画課 伊與部係長より、資料に基づき説明（資料１）

（４）その他

次回の会議は、庁内で検討を始めることから、基本計画の骨子案が作成され次第設けたいと考えている。ずれ込む可能性もあるが、年明けの１月には開催したいと考えており、改めてご案内するのでご出席いただくようお願いしたい。

(1) これまでの経過について

1. 会議開催状況について

(1) 中標津町総合発展計画審議会

第1回中標津町総合発展計画審議会（令和元年12月20日（金）開催）において計画策定の概要や町民アンケートの結果について説明させていただきました。それ以降、新型コロナウイルス感染症の影響により会議開催できておりませんでした。本日2回目の審議会開催とさせていただきました。

(2) 中標津町まちづくり町民会議

第10回中標津町まちづくり町民会議（令和2年11月19日（木）開催）まで開催済みであり、「まちの目指す姿」や「基本構想に向けた町民会議の意見」を取りまとめました。途中新型コロナウイルス感染症の影響により半年間会議開催を見送っており、スケジュール上大幅な遅れが生じている状況です。

2. 第6期中標津町総合発展計画の検証について

令和元年度に現第6期中標津町総合発展計画に係る評価について庁内で議論を重ね報告書を作成致しました。報告書には成果指標の達成状況や各主要施策の総括・課題を分析し、その達成状況からA・B・Cの基準にて評価させていただきました。委員の皆様には令和2年4月に郵送させていただいております。

3. 議論の経過について

計10回開催しました中標津町まちづくり町民会議においては、町民アンケートや中高生アンケートの結果、第6期中標津町総合発展計画の検証結果等を踏まえ、「まちの目指す姿」や「基本構想に向けた町民会議の意見」を分野別に議論してきました。結果、下記のとおり町民会議としての意見がまとまったところです。

(1) まちの目指す姿

**空とみどりが人をつないでいくまち中標津
～住みたいまち、住み続けたいまち～**

中標津町まちづくり町民会議により上記のとおり「まちの目指す姿」を議論しました。「空」「つながる」「住みたい、住み続けたい」の3つをまちづくりにおける重要キーワードに掲げ、全ての施策の根本となる考え方と整理しております。

(2) 基本構想に向けた町民会議の意見

別冊資料のとおり、（仮称）中標津町第7期総合計画基本構想への町民会議としての意見を、分野別にとりまとめました。今後この町民会議の意見を軸に、町職員で具体的施策の検討を進め、基本構想の精査や基本計画の構築を行う予定です。

(2) 今後のスケジュールについて

1. 進捗状況の大幅な遅れについて

新型コロナウイルス感染症の影響で半年間会議の開催を見送ったことにより、策定スケジュールに大幅な遅れが生じている状況です。本来は令和2年12月定例会に提案することを目指して取り組んできたところではありますが、今後のまちづくりの指針として町民との十分な議論を行うためには、年度内だけでは十分な時間が確保できない状況です。

そのため、最短で令和3年6月定例会での提案を目指して策定作業を進めているところであります。

2. 今後のスケジュール

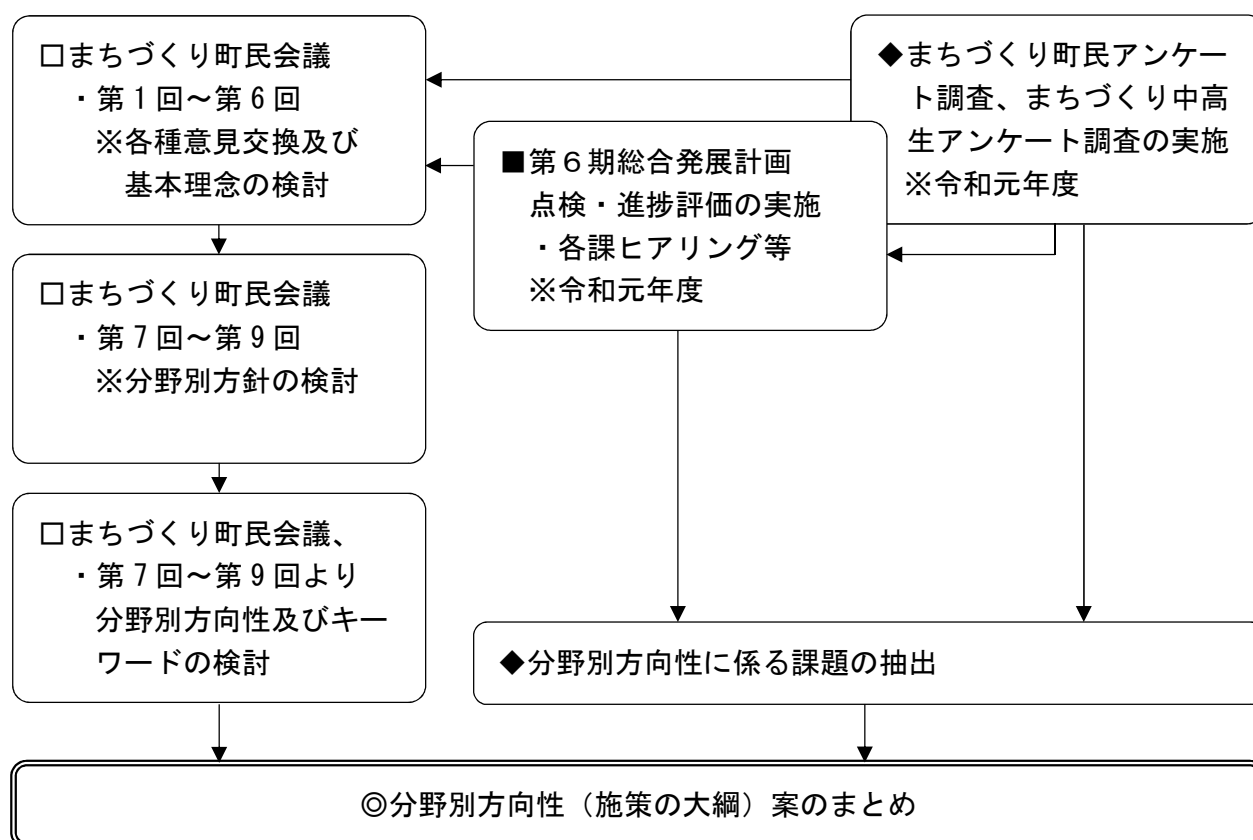
策定スケジュール（予定）

	年月 内容	R2年度				R3年度						
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
計 画 策 定	基本構想	案検討	修正・検討			案決定		議会 提案				
	基本計画	骨子案作成		素案作成		案決定						
実 施 内 容	総合発展計画 審議会	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回						
	まちづくり町 民会議		第11回	第12回	第13回	第14回						
	庁内会議	職員説 明・検討	庁内会議	庁内会議	庁内会議	庁内会議						
	特別委員会 (議会)		第4回			第5回	※この他、必要に応じ随時開催。					
	パブリックコ メント				実施							
	印刷・周知								冊子印刷・周知			冊子 配布

※太枠の囲いは合同会議の実施。

- 基本構想における施策の大綱は、まちづくり町民会議で検討しまとめた「基本理念及び将来像」を踏まえ、まちづくり町民会議において分野別に検討した内容をベースにしています。
- まちづくり町民会議で出された意見を、「基本構想（分野別の方向性）に関連する意見」及び「キーワード」に集約し、施策の大綱の検討要素としています。
- 上記と併せ、令和元年度に実施した「まちづくり町民アンケート調査」、「まちづくり中高生アンケート調査」、及び「第6期総合発展計画点検・進捗評価」等の関連内容を検討要素としています。

【検討フロー】



**（仮称）中標津町第 7 期総合計画基本構想における【経済・産業分野】の基本目標
（案）**

『（仮）産業の活力みなぎるまちづくり』

効率的で生産性の高いスマート農業の推進等により、農業生産基盤の維持・強化を図るとともに、森林資源の保全・活用を推進し、酪農景観を生かした「魅せる農業」の実現を目指します。

また、商業の維持拡大を図るため、既存企業への支援、新規起業も含めたまちなか活性化支援を推進するとともに、空港を生かしたテレワーク・サテライトオフィス等の推進による企業誘致や、道東エリア圏での広域観光施策を展開します。同時に、各業種における雇用の場の確保・働き手不足の解消に向けた取組や、各業種連携による 6 次産業化を推進します。

※参考

〔第 6 期総合発展計画 基本構想（将来像実現のための基本目標）〕

力みなぎる産業のまちづくり 【経済・産業分野】

農業生産基盤の一層の充実や担い手の育成・確保をはじめ、情勢の変化を踏まえた支援施策を推進し、農業の維持・充実に努めます。

また、林業の振興、商業集積の促進、既存企業への支援、新規企業の立地促進、地域性に即した観光・交流機能の創出とともに、こうした各産業が連携した 6 次産業化を推進します。

さらに、勤労者福祉の充実や雇用対策の充実を図り、力みなぎる産業のまちづくりを進めます。

【町民会議委員の主な意見】

- ・「酪農景観を生かした」だけではなく、景観に負荷を与えない「守る」という視点も必要。
- ・「まちなか活性化支援」では、郊外地が考慮されていないので表現を改めるべき。

【意見内容】

- 人を一番引っ張ってきやすいのは農業だと思う。コロナ禍で東京で仕事がなくなった人が町に来て、非常によく仕事をする。町の人がすごく刺激を受けている。(武田委員)
- 産業では農業が中標津の中では一番のキーになると思う。農業が元気になると町の商業にも良い影響が出る。農業は観光にもつながっている。中標津で観光で残っているのはガーデニングや食を使ったものや景観である。何かを持ってくるのではなくて、そこにあるものを活かしていく方が良いのかなと思う。
- 農業というキーワードは外せないと思う。商業にもつながっていると思う。ここに観光が入るかは議論があると思うが、2つは欠かせないと思う。
- 成果指標を見たら一番点数が低いのをやっていったら良いという話しをしていたと思うが、6次産業化の点数が一番低い。町長は6次産業化が大事だと言っていたと思うが、担当の人がこれからどうしようとか考えているのではないかと思う。次から話し合うときには担当者が居ると良いなと思う。ここで話しをしていて、ここを大事にしてというのは伝えることができるが、こうやって考えていると思うこともあるのではないか。そのずれがないように話し合っていた方がより説明しやすいのではないか。やり方の意見である。
→現段階では、町民会議の中で意見を出していただく段階である。その意見をもとに行政でできるできないを擦り合わせていくというのが、次の段階で考えているところである。
→今の段階で職員が参加すると、皆さんから意見が出し難くなると思う。(事務局 課長)
- 臭気対策として回数や地域を制限しているところもあるし、牛がいないのに臭いがするというのはどうなのかという人もいる。酪農体験は中標津ではないので、体験農業を入れるべきである。
- 中標津は酪農と観光(？、町？)が混在している珍しい地域であると思う。そこは稼げると思うが、いつまでもそれで終わってはつまらないと思う。ブランドとして売れるものをつくるとか、そういう産業が育っているのかを考え、中標津としてのブランドの育成が大事かなと思う。またいたるところにソーラーパネルがあり、景観の面からもそこをどうにかしないとみっともなくてしょうがない。糞尿は肥料とか二次的なものにつながると思うので、環境と景観をセットにして規制をかけていくしかないと思う。
- 働くことができない人が沢山出てきているが、コロナ禍をきっかけとして働き方を変えたいと思っている人が沢山出たのではないかと思う。飛行場のある中標津は人を呼び込むチャンスかなと思うので、テレワークができる施策とか、人手不足のところで雇用を生み出して移住しやすくするようなことも進めるべきである。
- 農業者は生産はやってきたが、見せることはしてこなかった。何軒か牛を放牧して育てているが、良いねと言われるので、見せる農業や食とつながる必要がある。町の牛はF1という等級であり、地元で消費されていない。地元の人はいずれも興味を持たないから。農業を見せながら次の人に伝える必要がある。
- 意見はズレるが、農業高校は教育委員会の管轄であり、今の話しは役場の経済部の話しであり、そのつながりはどうなのか。つながってもらいたいと思う。(本間委員)
- 観光の話であるが、酪農の施設には観光客は入れないということがあったので、見たいという人はいるがそれは可能なのか。
- エリアは限られている。どこでも入って良いという訳ではない。観光バスでやってきてそのまま見せるということもやっている。ただ伝染病がでると空港から入れなくなるという

問題はある。

- 農家民宿をやっているところがある。食事を提供し搾乳もさせたりとか。それはある部分保健所の関係とかがクリアできれば問題ないはずである。大人数や不特定多数で入るのは問題かもしれないが。
- サテライトオフィスを空港近くとか市街地に、滞在型で利用できるような場所を提供するのも良いのではないかなと思う。
→ここまでの意見で、見せる農業とサテライトオフィスで人を呼び込むの2点が出てきていると思う。
- 事業を拡大するにしても働き手がいないと。この前、ハローワークに行って求人を見てきたら、ものすごく求人が増えて、そこに対応してあげない限り、農業の求人は多く、街中の商業は潰れていくというのが一つあるので、見せる農業というのはすごく良いと思う。今の子ども達が働きたいと思う状況にしないとすべて倒れてしまうと思う。今回は雇用対策を重点にした方が良いと思う。
- 普通の雇用に対する支援があっても知らない人が多い。周知する方法であると思う。子どもがいて働きたくても働けない人ではなくて、ただ単に働いていない人も多い。働けるのに働かない人への雇用対策は必要である。
- 6次産業化の話が出たが、前回の6期の時も6次産業化を目指すということになっているが、例えばブランド化とか体験型農業とか、可能性があるところをもってやればなんとかなるかなと思うが、これを推進していくためには、時間がかかると思う。また、企業が知恵とお金を出さないといけないと思うが、6次産業化はこれからも推進していかなければならないと思う。

(事務局まとめ)

- 産業については、見せる農業、6次産業化、テレワーク・サテライトオフィス、働き手不足の解消としてまとめられるかなと思う。これをメインに据えながら基本構想の案を作成する形になってくると思う。

1-2 意見の仕分け

各委員から出された意見を、分野の方向を検討する意見（基本構想の参考とするもの）と、付随する意見（基本計画等の取組みの参考とするもの）に分けると、以下のとおりです。

①基本構想に関連する意見

- ・ 農業が一番のキー
- ・ 雇用を生み出して移住しやすくする
- ・ 雇用対策
- ・ 中標津としてのブランドの育成
- ・ 農業を見せながら次の人に伝える
- ・ 6次産業化（継続して推進）

②基本計画等の取組みの参考にするもの

- ・ 臭気対策
- ・ ソーラーパネルを環境と景観をセットにして規制をかける
- ・ テレワークができる施策
- ・ サテライトオフィス
- ・ 体験農業
- ・ 農家民宿
- ・ 雇用情報の周知

【キーワード】

- 見せる農業、6次産業化
- テレワーク・サテライトオフィス
- 働き手不足の解消

2-1 まちづくり町民アンケート調査結果より

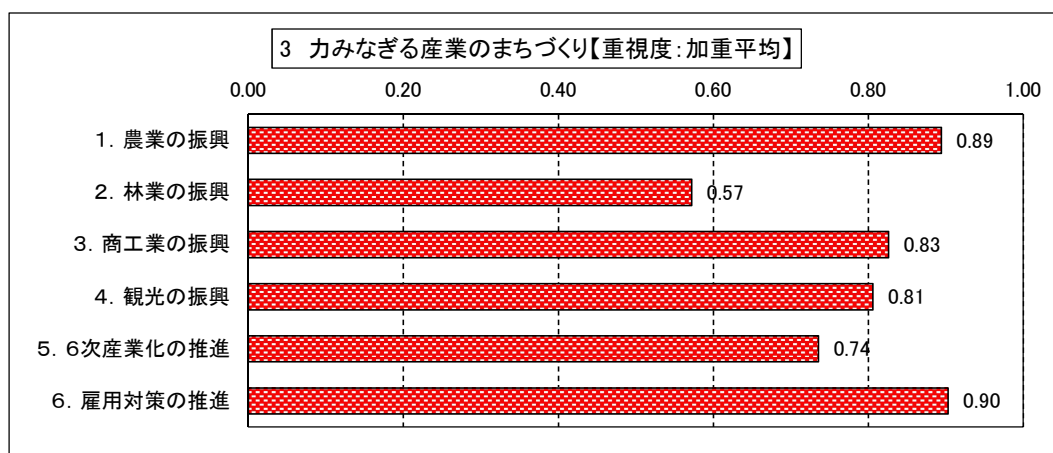
□問 31 町の商業振興に必要な取り組み（回答割合上位項目）

商店の専門店化や品揃えの充実	33.8%
後継者（若手経営者）の確保・育成	24.1%
歩道やトイレ、ベンチ等の環境整備 地元商業者主体の共同店舗等の整備	22.0%

□問 33 町の観光振興として力を入れるべきこと（回答割合上位項目）

美しい景観の保全・整備	24.4%
地域特色のある観光・体験施設整備	23.3%
地域特色のある料理、土産品の開発	19.8%

□問 70 各分野における重要度（加重平均値）

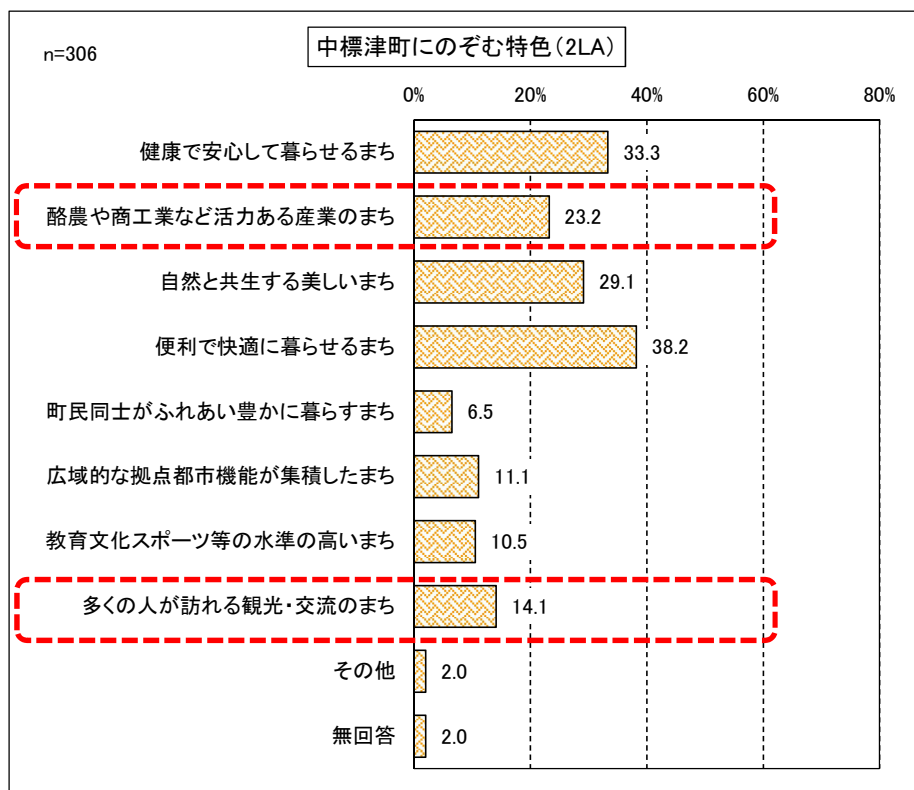


□問 64 将来人口目標達成に向けた取り組み（自由意見）

- 農家などの経営の安定
- 農業就農希望者などの受け入れ
- 大型工場などの働く場所の確保
- 商工業に対する支援の充実拡大。
- 商業以外の企業誘致
- 大型ショッピングセンターなどの商業施設
- I T企業の誘致
- 観光のP R
- 中標津町特産物（加工品など）のP R
- 広域観光のルート化と体験型観光の充実
- 若者が働きやすいような職場の充実
- 若い人材の働き場所確保
- 外国人就労者の受け入れ、
- 外国人の就業促進を見据えた取組

2-2 まちづくり中高生アンケート調査結果より

□問 6 中標津町に望む特色



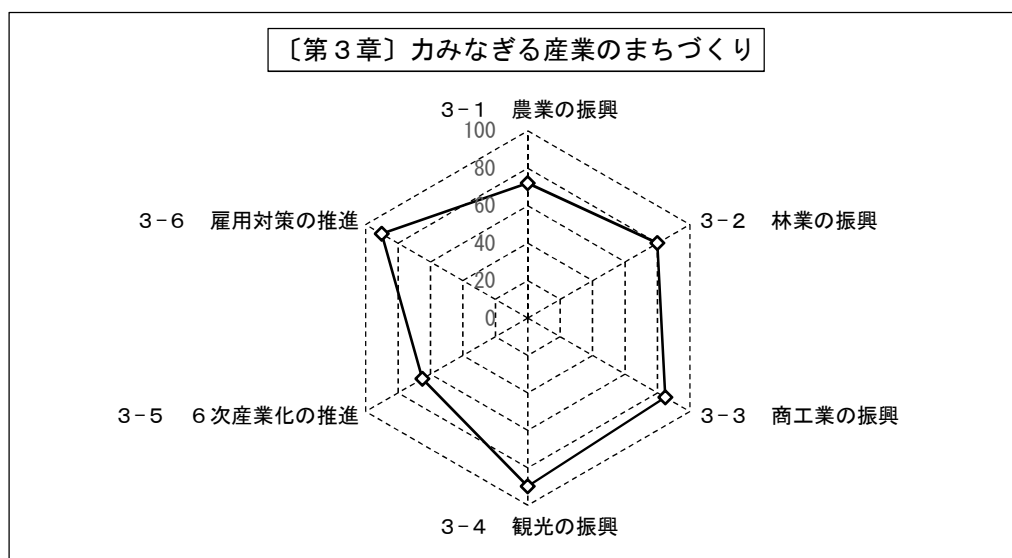
□問 19 中標津町の活力を高めるうえで期待される政策

農林業、既存産業の振興	21.6%
雇用を生み出す新産業の創出	8.2%
地域ぐるみで子どもたちを守り、育てる子育て支援	19.3%
義務教育における学力向上対策	16.3%
高校等の教育の充実	18.6%
活動の中心となる人材を育成する特色ある社会教育	6.5%
多世代が共に暮らせる福祉、医療の充実	11.8%
防犯、防災など安心できる暮らしの環境の充実	13.4%
道路、交通など発展への基盤整備	28.1%
地域資源を活かした観光・交流の推進	8.8%
リサイクル、省エネルギーなど地球環境対策	7.2%
自然環境の保全	21.9%
情報発信のための情報通信技術基盤の充実	6.2%
商業の活性化対策や街なかの賑わいの創出	19.3%
住民参画と協働の仕組みの整備	0.3%

3 第6期総合発展計画点検・進捗評価より

〔第3章〕力みなぎる産業のまちづくり

「施策」名	評価点	「施策」評価
3-1 農業の振興	72.0	B
3-2 林業の振興	80.0	A
3-3 商工業の振興	85.0	A
3-4 観光の振興	90.0	A
3-5 6次産業化の推進	65.0	B
3-6 雇用対策の推進	90.0	A



「〔第3章〕力みなぎる産業のまちづくり」を構成する6つの「施策」の進捗状況の評価は上記のとおりですが、「3-1 農業の振興」と「3-5 6次産業化の推進」の進捗が遅れていると判断されます。

□「施策」毎の主な課題

3-1 農業の振興

- 事業内容の費用対効果の検証を行い、農業全般にわたり効率的で生産性の高い事業展開を行うことが必要となっている。
- 酪農家における継承スタイルや経営構成が変化してきていることから、今後は担い手対策において効率の良いPR方法の検討や、初期投資の軽減対策をはじめとした地域の環境に馴染めるサポート体制の構築が必要。
- 今後、更なる所得向上を目指すことになるが、規模拡大による労働状況は厳しく、機械による労働環境の改善は進んでいるが、6次産業化への取組意欲は一部に過ぎない。

3-2 林業の振興

- 林業業界は担い手不足、従事労働者の減少・高齢化問題を抱えており、今後も補助事業を活用しながら計画的な造林を進め、森林維持更新に努める必要がある。

- 林業労働者の減少や高齢化による担い手不足が深刻な状況にあるため、外国人労働者の雇用が課題となっている。また、公益的機能維持・増進のため、私有林整備の重要性は益々高くなっている。

3-3 商工業の振興

- 高齢化社会により慢性的な技能士・技術者不足が更に進行するため、長期的に技能・技術の継承が危惧される。
- 販路拡大（商談と売上げ向上）や、特産品の基準作りに遅れがみられるため、今後計画的に実践できるよう事業内容の見直しを含め内容を精査する必要がある。

3-4 観光の振興

- 単独市町だけではなく「ねむろ地域」として広域的な事業展開が必要となっている。
- 一般社団法人なかしべつ観光協会が「自ら考え行動する組織」として運営できる様、人的・ソフト的な後方支援を行う必要がある。

3-5 6次産業化の推進

- 今後も継続的な支援が必要である。

3-6 雇用対策の推進

- 冬期就労対策は、あくまで短期就労であるため通年雇用化に結びつける必要がある。
- 企業誘致など地域に活力をもたらす産業振興策や、特産品の新規開発や販路拡大を推進する必要がある。
- 留学生の居住及びアルバイト先の確保、外国人留学生に対する住民理解を深めることなどが必要となっている。日本語学校開設後においては、留学生の生活面のサポートや町民との交流の場を設けるなど、引き続き行政と町内協力団体が連携して行う必要がある。

**（仮称）中標津町第 7 期総合計画基本構想における【教育・文化分野】の基本目標
（案）**

『（仮）郷土愛溢れるまちづくり』

全ての子どもたちが、社会で活躍できるよう、学力向上や情報化・国際化社会等に対応した質の高い教育環境の整備、充実を図るとともに、自然や産業、人材等の資源を活用した特色のある教育や、地域と連携した学校教育を推進し、郷土愛を深め、残りたい・戻りたいまち中標津を目指します。

また、生涯学習・スポーツ施設の積極的な利活用により、町民一人ひとりの生涯学習活動の推進や、大学等の合宿誘致による地域間交流促進を図るとともに、貴重な文化財や郷土資料・その周辺環境を含め保存・活用を推進します。

※参考

〔第 6 期総合発展計画 基本構想（将来像実現のための基本目標）〕

人が輝き歴史と文化を育むまちづくり 【教育・文化分野】

本町の自然や産業、人材等の教育資源を活用した特色ある教育の推進など地域の総合力による生きる力を育む教育活動の推進や学校施設・設備の充実など、学校教育環境の一層の充実を図ります。

また、整備された生涯学習・スポーツ施設を活用し、町民一人ひとりが生涯にわたって学び続け、自己を高めていくことができる生涯学習社会の形成を進めます。

さらに、町民の自主的なスポーツ活動、文化芸術活動、青少年の健全育成活動などの促進、貴重な文化財や郷土資料の保護・活用を図り、次世代の本町を担う人材の育成と歴史と文化のまちづくりを進めます。

【町民会議委員の主な意見】

- ・「自然や産業、人材等の資源を活用した特色のある教育」などは「特色のある教育」にするなど、読みやすい文章にすべき。
- ・「郷土愛を深め」について子どもだけが対象になっている。大人も郷土愛を深めるようにすべき。
- ・生涯学習活動の推進は施設の積極的な利活用によってのみ図られるものではない。あくまで手段の一つであるため文章表現を修正すべき。

【意見内容】

- （第6期で）「人が輝き」という言葉があるが、何を指しているのか。学校側の要望とか裁量が今の段階では弱い。もっと現場で、ああしたい、こうしたいといった時に協力する体制をお願いしたい。現場サイドの決定権を柔軟にする意見を入れていただきたい。
- コロナ禍で学校や大学とかのあり方だとかすごく変わってきている。インターネットを介した授業が増えると思われ、町でもそういったことに対応する必要がある。
- 現場の意見が反映されていないのが現状である。どこの学校に行っても情報がとれにくかったり、もう少し柔軟な対応が必要である。農業高校や地域資源が活かしきれていないと思う。
→ここまでの意見をまとめると、現場の意見が通りにくい、もっと柔軟な対応が必要ではないかという意見、また、農業高校や地域資源を活用した学習ができるのではないか、インターネットを活用した教育や生涯学習ができるのではないかという意見がでてくる。
- 生涯学習施設の充実をして欲しい、あえて学校教育と生涯学習に分ける必要はないと思う。これから必要なのは小中高の連携であり、幼稚園、大学、企業とも連携できれば良いと思う。
- 生涯学習を、自分を高めていくということに完結せずに、まちづくりにつなげる視点が入ると良いかと思う。
- 来年度、日本語学校の岩谷学園が開設されるが、学園は専門学校を持っており、中標津にもという話があるので、看護学校を誘致してもらいたい。農業高校に調理師科を設けてもらいたい。子どもには、生活習慣をきちっとするような基本的な教育が必要である。
- みんながどんな人を育てたいのかを決め、何が必要なのかを検討する必要がある。理想の話しかでないのではないか。
- 農業高校の魅力を最大限にと、教育と高齢者施設の融合と書いたが、体をつくっていくためにスポーツを前面に出す教育が必要ではないかと思う。
- 地域の子供達がずっと中標津にいてくれるために必要な教育は何かと考え、今後国際化を見据え、子供達が外国人を受け入れる人材ができていけば、企業もでてきて強いまちづくりになるのではないか。通信システムがこの地域では弱いと思うが、PC等を使える人材づくりが必要であると思う。
- 自分が将来どのような人生を送るかのビジョンが薄い子供が多いと思う。将来どのようなことをしたいのかを描ける教育環境があれば良いと思う。
- 職場体験を受け入れることがあるが、中標津町から出たいとすごく言われる。教育の面からも住み続けたいと思ってもらえる町にしたいと思う。
→子供達が住み続けたいと思ってもらえる教育という意見かと思う。
- 夢がない子供が多いと実感している。もっと企業側が、この町にどのような仕事があるかアピールできる場があれば良いと思う。
- 子供達が地元に戻りたいとか、地元で働きたいと思うためには、生き生きと働いている大人のモデルが必要かと思う。地元の人材と子供がふれあう場をつくっていけば、中標津の魅力に子供達は気づけるのではないか。交流の場を増やすべきである。
- 子供達には一回町から出したいと思う。地元しか知らないというのは疑問である。地元にならなくていいという部分もあるが、地元に戻ってくる動きをつくるという内容も盛り込んでいただきたい。

- 子育てを都会ではしたくなくて戻ってきた。情報社会では都会の方が選択肢もあるし子どものためには良いのかもしれないが、自然がない中で育つというのは柔軟な発想ができない人が多いというイメージである。でも、町もそのような感じになっており、自然はあるが子ども達が言われたことしかできないように思う。
- 色々なところで学力が低いとか体力が低いとか取り上げられているところが多いように思うが、先生方が働きやすい環境をつくることも大事なのではないか。生涯学習やスポーツをやるにしてもお金がかかるので、(町として) お金を捻出することを考えるのも必要かなと思う。外から呼ぶ催しを全体で行い、いじめや自殺などをなくす捌け口のひとつになればと思う。
- 3人子どもがいて、2人は戻ってきているが、一度外に出て資格を取ってから中標津に戻りたいと言ったことがあり、戻る理由を聞いた時、人が温かいからと言った。そういう体験をどんどんさせていく教育をすれば帰ってきたいと思う子ども達が増えるのではないかな。なので、交流とかは欠かさず入れてもらいたい。
- 子どものイメージが強いと思う。ここでは文化が豊かでスポーツが色々できるから、ここでは人が温かいからとか、子ども達だけでなく大人にも当てはめても良いのではないかな。
- 大人の教育という観点から、若いときに資格を取れなかったということが多いと思う。子育てが終わり新しいステージを考えたときに、資格が必要ということが結構多い。大人が学べる機会やチャレンジする機会があまりない。資格を取りたいときに勉強できる講座があれば人は集まると思う。

(事務局まとめ)

- 子ども達に住み続けてもらいたい、戻ってきてもらいたいという視点が共通認識になるかなと思う。そのために何をしたらいいのかは、それぞれの意見かなと思う。

1-2 意見の仕分け

各委員から出された意見を、分野の方向を検討する意見（基本構想の参考とするもの）と、付随する意見（基本計画等の取組みの参考とするもの）に分けると、以下のとおりです。

①基本構想に関連する意見

- ・まちづくりにつながる生涯学習
- ・生活習慣をきちっとするような基本的な教育
- ・体づくりに向けたスポーツを前面に出す教育
- ・国際化を見据え、外国人を受け入れる人材の育成
- ・子ども達が将来を描ける教育環境
- ・教育面からも住み続けたいと思ってもらえる町

②基本計画等の取組みの参考にするもの

- ・（教育の）現場サイドの決定権を柔軟にする体制
- ・インターネットへの対応
- ・農業高校や地域資源を活用した学習
- ・生涯学習施設の充実
- ・看護学校の誘致、農業高校への調理師科の設置
- ・生き生きと働く大人のモデル、交流の場を増やす
- ・先生方が働きやすい環境をつくることも大事
- ・資格を取りたいときに勉強できる講座

【キーワード】

- 子ども達が戻ってくる教育

2-1 まちづくり町民アンケート調査結果より

□問 47 子どもの豊かな人間教育に必要なこと（回答割合上位項目）

家庭のしつけをとおした思いやりの心の育成	44.4%
いじめなどの心の問題への対応	35.0%
基礎的な学力の向上を目指す教育	21.7%

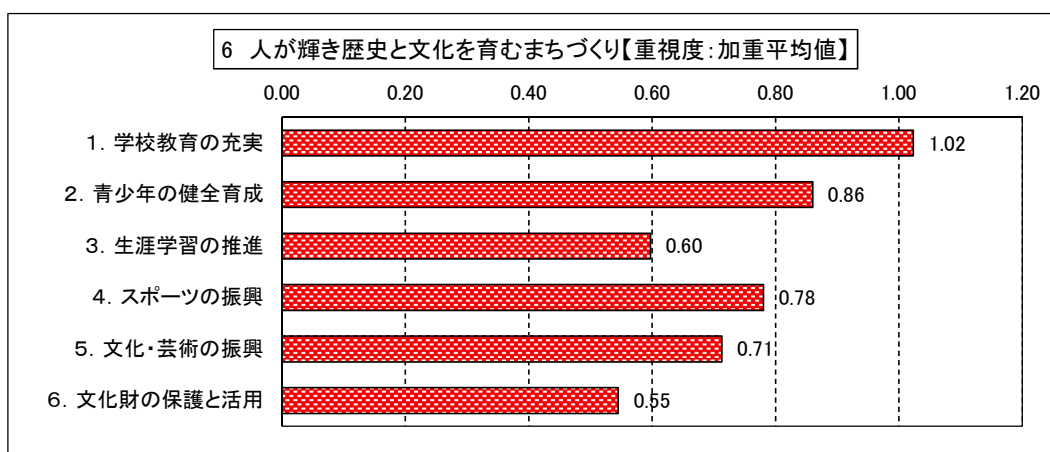
□問 51 生涯学習・文化活動の活性化に必用なこと（回答割合上位項目）

各種講座などの情報提供の充実	28.3%
各種講座や催し物の内容の充実	24.7%
音楽・美術などの鑑賞機会の充実	23.3%

□問 53 スポーツ活動の活性化に必要な取り組み（回答割合上位項目）

スポーツ施設など活動の場の整備充実	30.2%
スポーツイベントの企画・開催	27.4%
指導者や相談体制の充実	26.8%

□問 70 各分野における重要度（加重平均値）

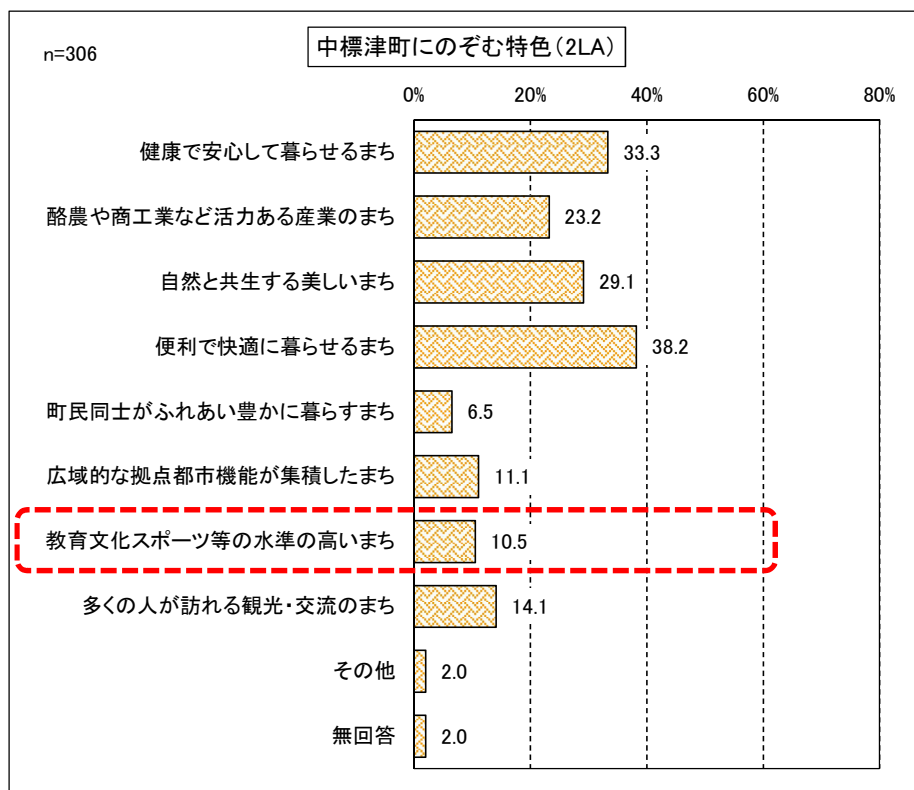


□問 64 将来人口目標達成に向けた取り組み（自由意見）

- 教育（費）の充実
- 教材費や給食費の無償化など
- 大学等の教育施設の増設
- 青少年向けの娯楽施設の確保（映画館等）
- 娯楽施設（ボーリング場、映画館など）
- 大学、短大、専門学校の誘致
- 専門学校等の誘致
- 文化施設の充実

2-2 まちづくり中高生アンケート調査結果より

□問 6 中標津町に望む特色



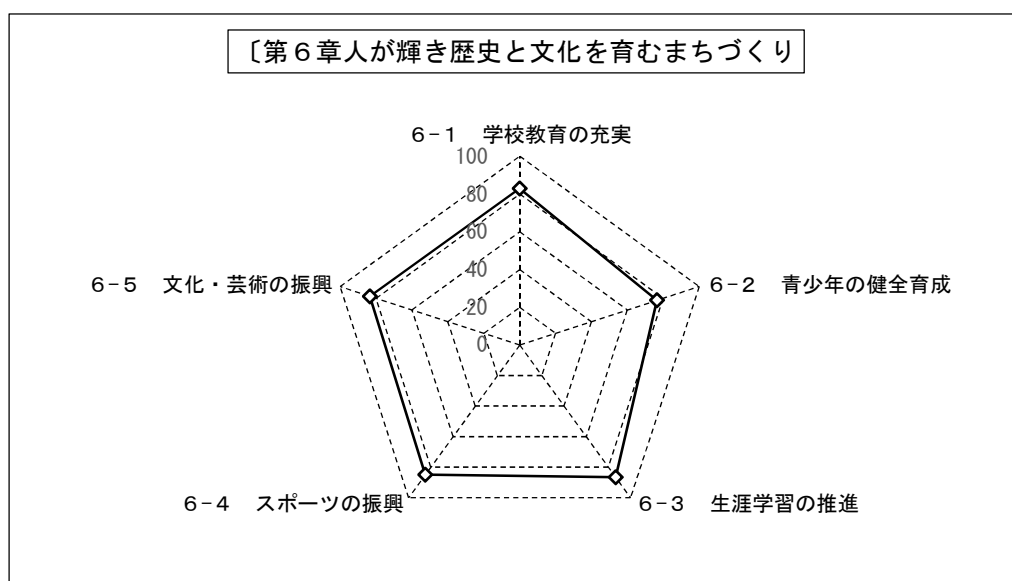
□問 19 中標津町の活力を高めるうえで期待される政策

農林業、既存産業の振興	21.6%
雇用を生み出す新産業の創出	8.2%
地域ぐるみで子どもたちを守り、育てる子育て支援	19.3%
義務教育における学力向上対策	16.3%
高校等の教育の充実	18.6%
活動の中心となる人材を育成する特色ある社会教育	6.5%
多世代が共に暮らせる福祉、医療の充実	11.8%
防犯、防災など安心できる暮らしの環境の充実	13.4%
道路、交通など発展への基盤整備	28.1%
地域資源を活かした観光・交流の推進	8.8%
リサイクル、省エネルギーなど地球環境対策	7.2%
自然環境の保全	21.9%
情報発信のための情報通信技術基盤の充実	6.2%
商業の活性化対策や街なかの賑わいの創出	19.3%
住民参画と協働の仕組みの整備	0.3%

3 第6期総合発展計画点検・進捗評価より

〔第6章〕人が輝き歴史と文化を育むまちづくり

「施策」名	評価点	「施策」評価
6-1 学校教育の充実	82.8	A
6-2 青少年の健全育成	76.6	B
6-3 生涯学習の推進	86.6	A
6-4 スポーツの振興	85.0	A
6-5 文化・芸術の振興	83.3	A



「〔第6章〕人が輝き歴史と文化を育むまちづくり」を構成する5つの「施策」の進捗状況の評価は上記のとおりですが、「6-2 青少年の健全育成」の進捗が比較的遅れていると判断されます。

□「施策」毎の主な課題

6-1 学校教育の充実

- 引き続き計根別幼稚園の安定経営の継続、及び地域のニーズを把握しながら幼児教育と子育て環境の充実に努める必要がある。
- 引き続き学校規模の適正化について適切な対応を行っていく。
- 農業高校としての特色を活かした、更なる魅力ある学校づくりを進める必要がある。

6-2 青少年の健全育成

- コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動と併せて推進するための検討が必要である。

6-3 生涯学習の推進

- 学習成果を地域社会に還元できるような機会作りや動機付けの場づくり、子どもから大人まで多くの町民が参加したくなる事業の企画・実施が必要である。
- 生涯学習関連施設の長期間利用に向けた整備が必要である。
- 家庭教育学級の安定した活動の維持に向けた支援の継続が必要である。

6-4 スポーツの振興

- 使用料では賄いきれない管理運営費用が課題となっている。
- 今後も利用者のニーズに応えとともに、無駄を省きつつ利用促進を図る必要がある。

6-5 文化・芸術の振興

- 文化財や地域の景観への理解と保護意識の啓発を継続することが必要である。

(仮称) 中標津町第7期総合計画基本構想における【健康・福祉・子育て分野】の基本目標
(案)

『(仮) 安心と生きがいを感じるまちづくり』

少子高齢化社会における高齢者の孤立等の問題に対応するため、支え合い助け合う住民参加の地域福祉体制づくりを進めるとともに、高齢者や障がい者が地域に参加し生きがいをもって暮らすことができる取組みを推進します

また、地域全体で子育てを応援する体制を整え、子どもを生み育て、仕事と両立できる環境づくりを推進します。

併せて、地域医療の中核として信頼できる町立病院を目指し、経営の改善を図るとともに、町民一人ひとりの健康寿命の延伸に向けた健康づくりを推進し、すべての町民が安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。

※参考

〔第6期総合発展計画 基本構想（将来像実現のための基本目標）〕

健やかでやさしいまちづくり 【健康・福祉分野】

支え合い助け合う地域福祉体制づくりを進めながら、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる福祉・介護体制の充実、すべての人が健康で安心した生活をおくることができる医療体制の充実、子育てを町全体で応援する体制の充実などを図ります。

さらに

、町民一人ひとりの健康寿命の延伸と予防を重視した社会づくりに向けた町ぐるみの健康づくりを推進し、すべての町民が安心して暮らすことができる健やかでやさしいまち

【町民会議の主な意見】

- ・「少子高齢化社会における高齢者の孤立等」が大きく取り上げられているが、もっと多くの問題がある。幅広い言い回しにすべき。
- ・「支え合い助け合う住民参加の地域福祉体制づくり」とあるが、これはひとり親世帯等もっと幅広い人たちを対象としたもの。
- ・高齢者施策について福祉の視点に特化しており、介護の視点が抜けている。
- ・「高齢者や障がい者」だけではなく「難病患者」等の「ハンディキャップを抱えている人達」も含めた文章にすべき。
- ・町立病院の経営改善については町にとって大きな問題であり、（議論の中で一度「改善」を「健全化」に改めてはとの発言もあったが）より強い表現として「改善」とすべき。
- ・「健康づくり」だけではなく「予防」の視点も必要では。

【意見内容】

- 役場が抱えている問題は病院の赤字問題だと思う。でも、健康で健やかという町民が増えるとますます赤字は増えるという問題はあと思う。地域医療を担う町立病院の存在意義が一番重要だと思う。町立病院への信頼感は薄いと思うが、広域の医療連携をしてもらえれば良いと思う。また、乳幼児と高齢者をコラボすることを挙げた。
- 札幌や釧路の病院にかかる経済的な負担や家族の負担もかかるので、医療の充実であろうと思う。介護や福祉など安心できる体制が欲しいと思う。また、予防に心がけているが、働いている人は80歳になっても元気であり、働く場をつくるのが大事だと思う。働くことが生きがいになり健康につながると思う。
- 病院の問題は大きいと思う。新しくなったときに1か月ほど入院したが、至れり尽くせりで器が変わるとこんなに違うのかなと思った。最近はサービスが悪くなったと感じており、入院生活を送る上での患者への支援がされていない。看護の質がすごく下がっていると感じている。やめる人も多いと聞いており、人手不足とかあると思うが、職員が働き続けたい病院とするべきである。選ばれない病院にしないようにするべき。
→病院への信頼感ということと思う。
- 中標津に病院があつていいなというところを目指せばいいと思う。また、まち歩きをすれば人との交流もできるし、健康でいられるのかなと思う。
- 予防の促進と書いたが、歩いて楽しい街とつながると思う。今、病院が批判をあびる状態となっており、第6期でも達成されていない状況となっているが、そういう部分よりは予防を促進して、そういったところに特化した病院にするという発想も良いのではないかなと思う。福祉と子育ての部分では、子育て支援課もあり、力を入れているのではないかな。支え合うということが一番大事ではないかなと思う。
- 子どもが0歳児から働きたい母親が多いが、預けるところがないと聞いており、子育て支援が必要である。障害者福祉は割と充実していると思う。こども人の温かさにつながると思う。
- 町民の要望は病院が一番大きく、町としても大変な事態だと思っている。アンケートでも意見が沢山出ているが、現状は逆だと思う。病床の利用率は半分も使っておらず、半分以上ベッドが空いていたという状況である。急性期の患者を入れ慢性期の患者はすぐ出るが、高齢者になると慢性期の患者が多い。安心して入院できることが求められていると思う。プロジェクトチームも立ち上がっているが、患者を第一としつつ、この状況を何とかしないといけないと思う。
→複数の方の意見であるが、信頼できる病院になっていかなければならないという視点があると思う。
- 子育てについて、家にいることが多くなって、DVとか虐待とかが増えてきていると言われている。孤立させるのがそういうことを生むので、周りにつながっていくという視点の支援が大事かなと思う。かかわりを持てる体制づくりとか情報発信が必要である。
→支えあい、かかわり合い、温かさという表現にもつながってくると思うが、そういったものが今後の社会に必要なではないかなという視点と感じた。
- 町内の小中学校でコミュニティスクールを全町でやっているが、子ども達を地域で育てるという格好になっている。教育と子育てをまたぐ視点も入って良いのかなと思う。町全体でコミュニティスクールを推進していくべきである。
- 協働と総働を以前出したが、子育てであれば、子育てを支援するだけではなくて、教育委

員会も携わりと、課を横断して関わっていくことではないか。部署にかかわらず、支援が必要なところに対して町全体で関わっていくというイメージである。

○養護学校があるが、町内の子はほとんど入学していないのが現状である。町外の子が寮で生活していて、町内の子が通えない、今まで週3日通っていたのが週2日になって、全然足りないという現状である。健康寿命とあるが、それを知っている人が何人いるかと思う。現状を維持するよりも、現状に変化をつけて向上につなげていった方が良いと思う。男性が1日1万歩、女性が8千歩歩くと10%病気のリスクが下がるという内容を知らないから、分かるようにするべきである。知らないことを知ることから始めるべき。

○最近は権利擁護の問題とか、生活困窮の面だとか、色々な課題を抱えている方が多いので、キーワードの理由のように書いた。6期の基本構想に高齢者や障害者と書いてあるが、違和感を覚える。高齢者だから福祉が必要なのではなくて、生活課題を抱えている人に必要なだけ支援し、まちの中で暮らしていってもらいたいと思っているので、生きがいを持って幸福を追求してもらえればと思う。福祉用語にQOLという言葉があるが、健康、福祉、子育てという大きなくくりとなっているが、楽しく中標津で暮らしていくのが福祉ではないかなと思う。

→生きがいという視点が必要なのかなと思う。

(事務局まとめ)

○病院に対する信頼感、信頼できる町立病院が1点目、2点目は福祉にも関わってくるが、支え合う、温かいであり、地域全体で幅広く支え合っていくというイメージ、3点目が生きがい大事という視点かと思う。

1-2 意見の仕分け

各委員から出された意見を、分野の方向を検討する意見（基本構想の参考とするもの）と、付随する意見（基本計画等の取組みの参考とするもの）に分けると、以下のとおりです。

①基本構想に関連する意見

- ・医療の充実
- ・介護や福祉など安心できる体制
- ・かかわりを持てる体制づくり
- ・教育と子育てをまたぐ視点
- ・楽しく中標津で暮らしていくのが福祉
- ・信頼できる町立病院
- ・働くことが生きがいになり健康につながる
- ・情報発信
- ・生きがい

②基本計画等の取組みの参考にするもの

- ・広域の医療連携
- ・職員が働きたい病院、選ばれない病院にしない
- ・予防の促進、まち歩き
- ・養護学校の町内の子どもの利用確保
- ・乳幼児と高齢者のコラボ
- ・子どもを預ける場づくり
- ・生活課題を抱えている人に必要な支援

【キーワード】

- 信頼できる町立病院
- 支え合う、温かい
- 生きがい

2-1 まちづくり町民アンケート調査結果より

□問 36 町の保健・医療対策に必要な取り組み（回答割合上位項目）

医療機関の充実	64.2%
救急・休日・夜間医療の充実	33.0%
往診・訪問看護など在宅医療の充実	20.8%

□問 38 町の子育て環境充実に必要な取り組み（回答割合上位項目）

子育てに関する相談・学習・交流の場の充実	32.1%
児童虐待の予防・解消対策の推進	26.5%
保育所の充実	26.2%

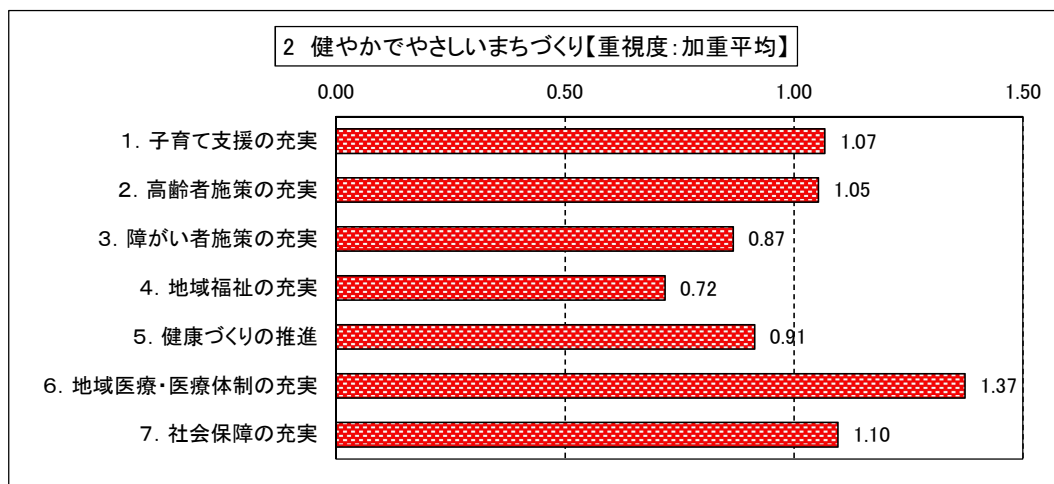
□問 40 町の高齢者施策に必要な取り組み（回答割合上位項目）

高齢者保健福祉サービスや施設の充実	37.6%
介護保険サービスや施設の充実	35.3%
生きがいづくりや働く場の充実	31.4%

□問 42 町の障がい者施策に必用な取り組み（回答割合上位項目）

就労に向けた支援や雇用環境の整備	34.8%
障がいの早期発見と教育・療育の充実	24.7%
入所施設やグループホーム等の整備	22.4%

□問 70 各分野における重要度（加重平均値）



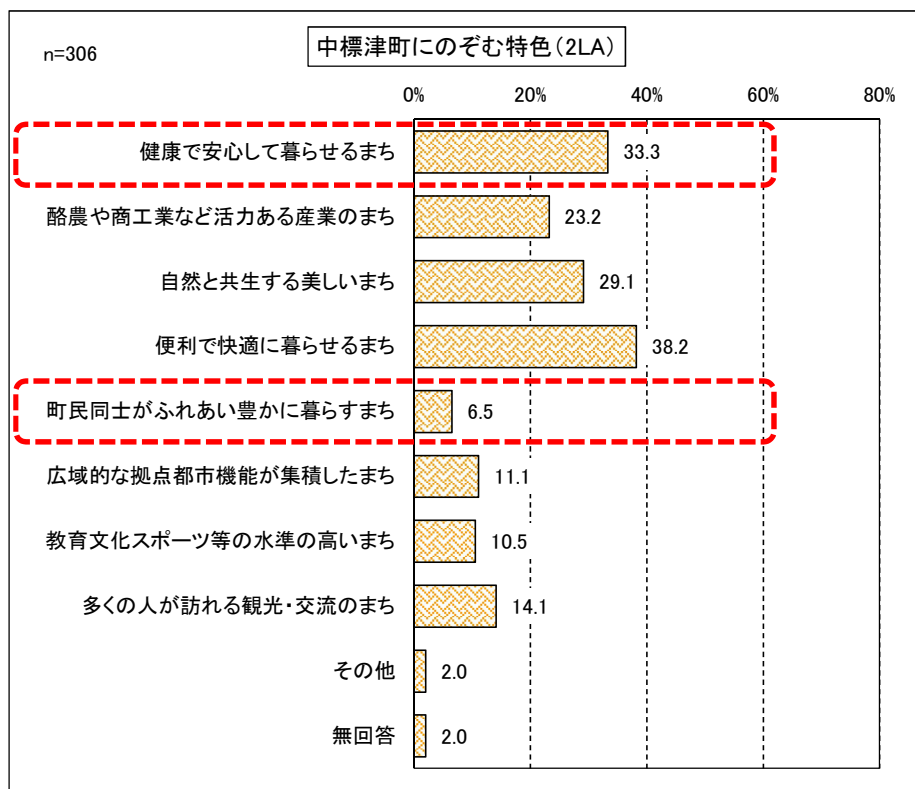
□問 64 将来人口目標達成に向けた取り組み（自由意見）

- 安心して子どもと生活できる街のアピール
- 子どもを育てる環境の整備
- 子育て世帯への助成充実
- 子ども手当、支援の強化
- 保育園医療費等の無料化等
- 子育て世代やシングルマザーへの援助
- 子どもを産みやすい、育てやすい環境の整備

- 健康寿命への対応
- 高齢者等の在宅生活への支援
- 医療の充実、
- 医師の確保など町立病院の医療体制の充実
- 住居手当の充実

2-2 まちづくり中高生アンケート調査結果より

□問 6 中標津町に望む特色



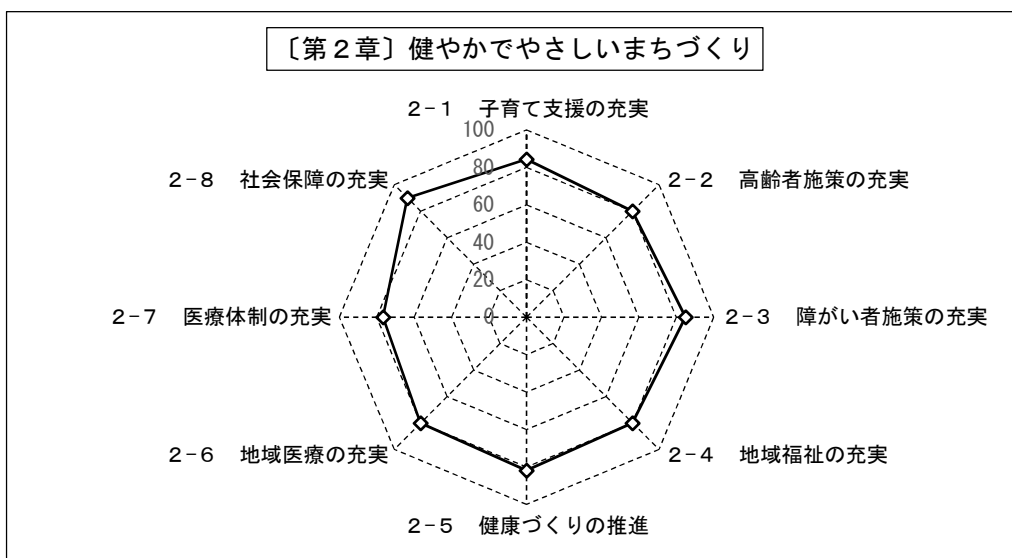
□問 19 中標津町の活力を高めるうえで期待される政策

農林業、既存産業の振興	21.6%
雇用を生み出す新産業の創出	8.2%
地域ぐるみで子どもたちを守り、育てる子育て支援	19.3%
義務教育における学力向上対策	16.3%
高校等の教育の充実	18.6%
活動の中心となる人材を育成する特色ある社会教育	6.5%
多世代が共に暮らせる福祉、医療の充実	11.8%
防犯、防災など安心できる暮らしの環境の充実	13.4%
道路、交通など発展への基盤整備	28.1%
地域資源を活かした観光・交流の推進	8.8%
リサイクル、省エネルギーなど地球環境対策	7.2%
自然環境の保全	21.9%
情報発信のための情報通信技術基盤の充実	6.2%
商業の活性化対策や街なかの賑わいの創出	19.3%
住民参画と協働の仕組みの整備	0.3%

3 第6期総合発展計画点検・進捗評価より

〔第2章〕健やかでやさしいまちづくり

「施策」名	評価点	「施策」評価
2-1 子育て支援の充実	84.2	A
2-2 高齢者施策の充実	80.0	A
2-3 障がい者施策の充実	85.0	A
2-4 地域福祉の充実	80.0	A
2-5 健康づくりの推進	82.0	A
2-6 地域医療の充実	80.0	A
2-7 医療体制の充実	76.6	B
2-8 社会保障の充実	90.0	A



「〔第2章〕健やかでやさしいまちづくり」を構成する8つの「施策」の進捗状況の評価は上記のとおりですが、「2-7 医療体制の充実」の進捗が比較的遅れていると判断されます。

□「施策」毎の主な課題

2-1 子育て支援の充実

- 低年齢児保育の需要の増加、発達支援の必要な児童の増加傾向に対応する保育士の確保、及び現園舎の経年老朽化に伴う更新が課題となっている。
- 今後も病院・保健所・保健センター等も含め、各関係機関と連携しながら、子どもを生み育てる環境づくりの推進が必要である。
- 法改正により児童相談所と市町村の役割が明文化され、家庭訪問をするなど、(児童虐待の防止に向け)市町村に課せられた役割が増えている。

2-2 高齢者施策の充実

- 今後、地域と関係を持たずに、誰にも知られずにいる高齢者の地域参加が重要な課題となっている。

- 中標津町シルバー人材センター及び中標津町老人クラブ連合会への登録者数及び加入者数の増加が図られておらず、継続的な支援が必要である。
- 当町は今後高齢化率が大きく上昇することが見込まれ、これまでの成果以上の効果が出せる（介護予防）事業に転換していく必要がある。

2-3 障がい者施策の充実

- 障がい者移動支援以外の施策の展開により、障がい者の社会参加の促進を図る必要がある。
- 障がいのある人もない人も、支えあいながら生きる地域社会の実現を目指すとともに、障がいのある人を始め、日常生活を送るうえで配慮が必要な人の視点に立った施策が必要となっている。

2-4 地域福祉の充実

- 少子高齢化が進展することに伴い、地域福祉活動の促進のための各種団体への支援を引き続き行う必要がある。
- より町民の理解を深めるとともに、ボランティア活動の参加者が魅力を感じる内容で多くの参加者を募り、福祉意識の高揚に努めることが必要となっている。

2-5 健康づくりの推進

- 計画の町民への浸透が十分ではないため、教室・講座などにより町民の健康に対する正しい知識の普及と生涯を通じて、運動の大切さを啓発する必要がある。
- 妊娠期から子育て期に至るまで切れ目の無い支援は適切に実施されており、その継続・充実が必要となっている。
- ゲートキーパー養成講座の受講者増を図り、地域で見守り支える仕組みづくりが必要。

2-6 地域医療の充実

- 救急医療体制の今後として、地域医療機関との協力体制の議論を踏まえ、地域にて輪番制を行い町立中標津病院の負担軽減を図る等の施策が必要。また、引き続き大規模災害等に対応するため、災害時医療援助隊員（DMAT）の増員や継続的な研修機会の確保等が必要。
- （町立中標津病院は）新経営改革プランの取組により多少の収支改善は図られているが、赤字経営から脱却していないため、引き続き改革を継続する必要がある。また、常勤医師の確保により入院管理を行える体制を早急に整え、医業収益の増収を図ることにより、早期に資金不足の解消を図る必要がある。

2-7 医療体制の充実

- 医師確保は厳しい状況であり、常勤医師が充足されていない診療科においては、引き続き派遣要請を行う必要がある。
- 就業者の定着や離職防止の観点から、院内保育所運営の充実と医療勤務環境の改善が必要である。

2-8 社会保障の充実

- 少子高齢化・人口減少社会を見据え、予防・健康づくり事業に重点的に取組むことで毎年増加する医療費の適正化を図り持続可能な国保事業を運営していく必要がある。
- 少子高齢化・人口減少社会の中で後期高齢者医療制度の加入者数は増加を続けるため、今後も、健康診査の拡大による生活習慣病の早期発見、重症化予防となる保健事業の取組を推進する必要がある。
- 年金受給方法の多様化等を含め、よりわかりやすい周知・広報を促進し、保険料納付案内、口座振替の促進、出張相談所開設の案内などを充実する必要がある。

**（仮称）中標津町第 7 期総合計画基本構想における【行財政分野】の基本目標
（案）**

『（仮）つながりが未来を築く協働のまちづくり』

人口減少により多様化・専門性が進むまちづくりへの課題に対応するため、町民や企業・団体と行政が連携し、互いに支えあう協働のまちづくりを推進します。そのために、まちづくりの意見交換の場、町民がわかりやすい行政情報の発信等に努めるとともに、地域コミュニティの強化のため、町内会加入率改善に向けた町内会との連携を図ります。

また、多文化共生社会に対応するとともに、互いに人権が尊重され、男女が共同して住みやすい社会づくりを進めます。

さらに、持続可能な行政運営に向け、財政基盤の強化や、AI 技術等を活用した業務の効率化、広域連携の強化に取り組み、多様化する行政ニーズに対応した横断的な連携を図ります。

※参考

〔第 6 期総合発展計画 基本構想（将来像実現のための基本目標）〕

参画と協働で未来を築くまちづくり【まちづくり・行財政分野】

町民・企業・団体と行政との情報の共有化や多様な分野における町民や企業・団体の参画・協働の仕組みづくりを構築し、「自助」「共助」「公助」による支え合い助け合いを推進し、地域連携の強化をめざしたコミュニティの育成、国際化への対応や広域行政の推進を図ります。

また、すべての人の人権が尊重され、ともに生きることができる社会づくりや、男女がともに社会のあらゆる分野に参画することができる男女共同参画社会の形成に向け、意識づくりや条件整備を図ります。

さらに、自立できる行政経営を持続的に進めていくため、行財政改革を継続的に推進します。

【町民会議委員の主な意見】

- ・「多様化・専門性が進むまちづくりへの課題」は「人口減少」だけが原因ではない。
- ・「地域コミュニティ強化のため、町内会加入率改善」が必要であるとの意味がもっと分かるように説明すべき。
- ・「男女が共同して住みやすい社会づくり」は令和の時代に沿った考え方ではないのでは。ジェンダーの視点等も考慮してほしい。

【行財政分野】

1-1 まちづくり町民会議意見一覧

(※第9回まちづくり町民会議 2020114)

【意見内容】

- 多種多様な人々が気軽に参加できるということを一番最初に持てきたい。皆色々な意見を持っているが、それを行政に反映できる場面は限られており、もったいないなと思う意見を皆持っているの、その辺を汲む行政であって欲しい。また、役場が暗くて行きづらい。もう少し明るい雰囲気が必要である。
- 未来に向かって話し合う場所が欲しい。町政懇談会とかでは道路の話ししかない。行政からの問題提起が必要かと思う。
→町民と行政が意見交換できるような場づくりという意見と思う。
- コンパクト行政ということを考えた。縦割り行政をやめ部署を3部くらいに再編してはどうかと思う。緊急事態も起こると思うので、土日祭日閉庁ではなく、フレックスタイムにして365日稼働する役場があっても良いかと思う。
- 議会等でもテレビ配信システムがない状況なので、外に発信するにあたって、ネット配信等を積極的に導入し、開かれた行政にすべきである。
→町としての情報発信についての意見と思う。
- 町議員と話したときに、若い人がもっと出て町のことに関わるべきとのことであったが、選挙にはお金がかかるので、それはいかがなものかと思う。町議を決めるのだから町で支援しても良いのではないか。また、一人ひとりが力を発揮できるまちづくりをしてもらいたいと思っている。若い人は堅苦しいところと呼んでも来ないし、来ても言えないので、気軽な場所をつくったら良いと思う。
→町民同士や町民と職員が話し合える場所というイメージだと思う。
- 懇談会は苦情の場となってしまうが、もう少し住民と行政が協力しながら協働みたいな形が進まないのかなと思う。計根別のカボチャのイベントや西部地区の凧揚げのイベントでは、職員が頑張っているが、役場が身近に感じるし、職員も直接意見を聞けるというのは良いと思う。土日時間を取られるという負担は考えなければならないが、協力できる体制を進めていけば良いと思う。
→身近な行政ということかと思う。
- 第6期では、参画と協働で未来を築くまちとなっているが、町内会の加入率が40%を切るところまできている。町内会はコミュニティの場づくりにもなっていると思うので、高齢化の中で消滅寸前になっているので加入促進して進めていければと思う。
- 役場の改革についてであるが、私も暗いと思うし、そう言われる。役場の自殺者が多いし、標津町でも色々対策を講じているが、職員の悩みを受け止める部署があれば良いと思う。また、男女共同参画であるが、役場の中でのなかなか進んでおらず、役場が先頭に立ってもらいたい。
- 広域連携やコンパクトな街づくりをキーワードとして挙げたが、人口が減ってきていることと、やることが多様になってきているということで、隣町や北海道と連携をしていかないと物事は進まないのかなと思う。コンパクトというのは何から何までやってしまっは、行政は大変だと思うので、この2つを目指していくべきと思う。
- 町内会の加入率が40%を切っているということであるが、住んでいる地区では4,000人いて加入率は60%位である。町営住宅とかに新たに居住する人には積極的に加入してもらい形にしている。また、防災備蓄は加入率分しか置いていないと思うが、町内会への加入は行政と町内会の役員の努力もあると思う。老人会も少ないという話もあるが、年に1回のお茶飲み会ではつまらないと思う。

- 町内会加入率は色々な方法を取れば上がるのではという意見と思う。(事務局 係長)
- 農林課の職員とよく現場に行っているが、緊急事態の時こそ普段の連携が取れていないとすぐ動けないと思う。
- 一つ目は協働、二つ目は財政について、三つ目が情報社会への対応を考えた。前の会議ではやらされ感とか、アリバイづくりに使われているように感じたが、今色々な意見が出されて良くなったと思う。ただ、この場でキャッチフレーズを決めたので、役場の人にやってくださいとなった時に、役場の人がやらされ感になってしまうのではないかという気がしてもやもやしている。ここ何十年協働を進めているが、これからも取り組んでいかなければならないと思う。財政は危機的状況にあるが、第6期の時よりも明記して取り組まなければならない。情報化社会は、光を通してもらったが、Society5.0 という社会に向けて、まだ回線が遅かったり、Wi-Fi もつながり難かったり課題は多いと思う。
- 役場の職員と話し合う機会も今後持ちたいと思う。
- コンパクトな行政というのは絶対なので、縦割りとなっている組織を風通し良くする必要がある。忙しいところは一人でやってしまうので、そういうことが起きるのではないか。人の連携が取れるように交流を活発にした方が良いと思う。産業課みたいなものを一つ作ってという考え方もあるのではないか。
- 行政内部で協働を図るべきという意見と思う。
- 気軽に話しができる場づくりとか、町内会の加入促進であったり、行政運営に限らず、色々な分野でも意見として出ていたと思うが、町民にもっと参加してもらいたいとか、若い人に参画して欲しいとか出てきているところが多いと思う。しかし、広報紙やSNSで発信しても、参加する気がなかったり、自分で調べる気がなければ目には留まらないところがあるので、情報を伝えたい人にどうやったら伝えられるかも考えていかなければならない。それによって、参加や参画の促進にもつながると思うところと、町内の様々な業種や団体が世代交代していく中で、行政の若い人たちが早い段階で町の人たちと交流をもっていくことが、今後のまちづくりに役立つのではないかと思う。
- 第6期の目標で書かれていることは本当に良いことであるが、果たしてそれが実現できたのかといえば疑問ばかりである。もっと具体的に実現可能なもの、効果が出てくるものに特化して決めた方が良いのではないかという感じがする。やれないものをつくっても意味がない。やれることで一番効果的なこと、そのハードルを下げて実現させることを挙げた方が、今回の特徴を出すには良いかと思う。誰でも参加できるコミュニティでまちづくりの場所をつくっていくとか、そこからすべて始まっていくと思う。
- 持続可能な方向でなければならないと思う。継続性のないものであったら立てない方が良く思う。
- 町内会の役員をしているが、町営住宅とかが沢山あるところで、自治会の加入率は40%で老人も多い。出ていくのは若い人ではなくて、町内会にも参加できないし、抜きたいと。かといって、町でも災害があったときにどうするのかということで、町内会に加入していない人も助けるシステムになっている。町内会に加入することの何がメリットで、何がデメリットか説明できない。だからお金のことを言われるとどうにもできない。若い人も、お金を使う場所が町内会費ではない、自分は自分なりに情報を集めるということなので必要ないという言い方をされるので、加入率を上げることは難しいと感じている。その点を踏まえて、加入率を上げることを考えてもらいたい。

(事務局まとめ)

- 協働についての発言が多かった。身近に意見交換ができる役場、連携が普段からできる役場であるべきという意見が多いように思う。これらを整理してキーワードに持っていく必

要があると思う。

○町職員を含めて意見交換ができる、普段から連携ができる、そういった町と町民との関係が必要ではないか、そのために、町内会加入率の促進が必要であったりとか、効果的な情報発信が必要であったりとかにつながってくるのかなと思う。キーワードは一つで、そのためにとつながると思う。

1-2 意見の仕分け

各委員から出された意見を、分野の方向を検討する意見（基本構想の参考とするもの）と、付随する意見（基本計画等の取組みの参考とするもの）に分けると、以下のとおりです。

①基本構想に関連する意見

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ・多種多様な人々が気軽に参加できるまち | ・コンパクトな行政運営 |
| ・開かれた行政 | ・自治会加入率の向上 |
| ・広域連携やコンパクトな街づくり | ・町民と行政の普段からの連携 |
| ・協働の推進 | ・情報化社会の推進（Society5.0 対応） |

②基本計画等の取組みの参考にするもの

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ・明るい雰囲気役場の役場づくり | ・フレックスタイムによる 365 日稼働役場 |
| ・ネット配信等の積極的に導入 | ・気軽な場所づくり |
| ・職員の悩みを受け止める部署づくり | ・Wi-Fi の充実 |
| ・若手職員の町民との交流 | ・町内会メリットの提示による加入促進 |

【キーワード】

- 協働
- 町民と行政の普段からの気軽な意見交換
(わかりやすい情報発信・行政内部の縦割撤廃・町内会加入率促進)

2-1 まちづくり町民アンケート調査結果より

□問 55 男女平等に参加できる社会に必要な取り組み（回答割合上位項目）

保育や介護サービスの充実など働きやすい環境の整備	47.7%
育児・介護休業制度の一層の普及	27.1%
女性の働く場所の充実	26.4%

□問 58 国内外との交流活動に必要な取り組み（回答割合上位項目）

スポーツ、文化を通じた人的交流	37.3%
学校教育・生涯学習などでの外国語教育	32.0%
国内外の姉妹・友好都市交流	24.7%

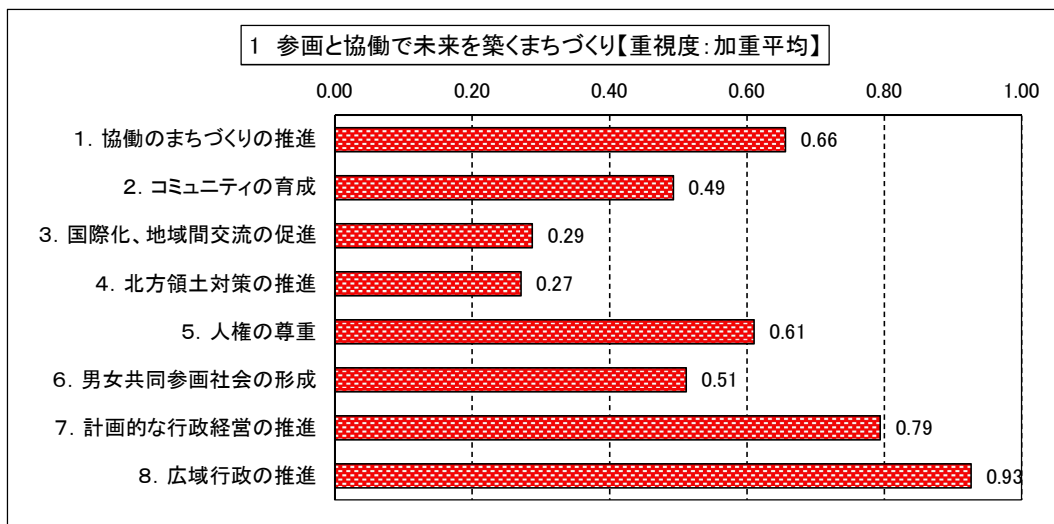
□問 61 参加したい地域活動・ボランティア活動（回答割合上位項目）

町内会や自治会などの活動	43.2%
公園・道路の清掃や花壇の世話	25.6%
教育文化スポーツ活動の指導・運営の活動	18.8%

□問 65 町民参画・協働のまちづくりに必要な取り組み（回答割合上位項目）

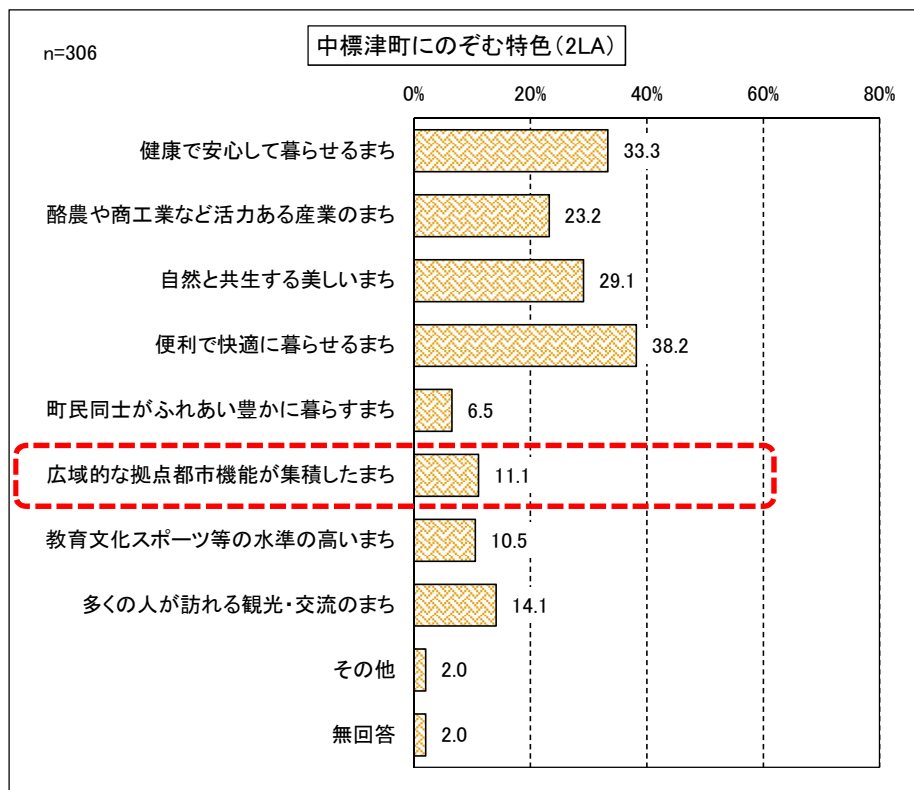
多くの住民の意見要望を聞く広聴活動の充実	28.6%
的確迅速な行政情報の提供のため広報の充実	28.2%
町民及び民間の参画・協働を促進する仕組みづくり	24.4%

□問 70 各分野における重要度（加重平均値）



2-2 まちづくり中高生アンケート調査結果より

□問6 中標津町に望む特色



□問8 今後参加したい地域活動やボランティア活動

身近な地域でのお祭り	49.3%
町の清掃や環境美化に関する活動	29.1%
身近な地域でのスポーツ活動や運動会	24.8%

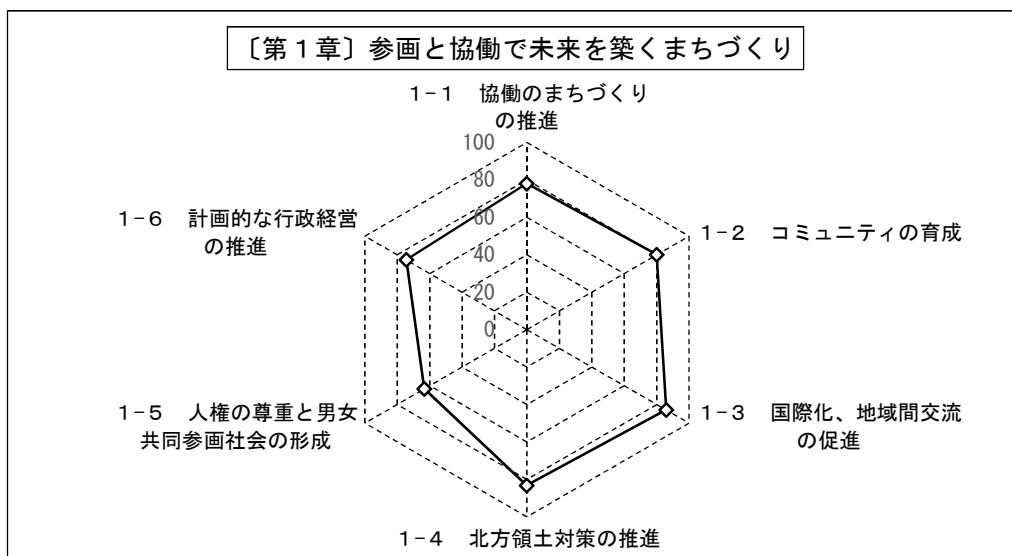
□問19 中標津町の活力を高めるうえで期待される政策

農林業、既存産業の振興	21.6%
雇用を生み出す新産業の創出	8.2%
地域ぐるみで子どもたちを守り、育てる子育て支援	19.3%
義務教育における学力向上対策	16.3%
高校等の教育の充実	18.6%
活動の中心となる人材を育成する特色ある社会教育	6.5%
多世代が共に暮らせる福祉、医療の充実	11.8%
防犯、防災など安心できる暮らしの環境の充実	13.4%
道路、交通など発展への基盤整備	28.1%
地域資源を活かした観光・交流の推進	8.8%
リサイクル、省エネルギーなど地球環境対策	7.2%
自然環境の保全	21.9%
情報発信のための情報通信技術基盤の充実	6.2%
商業の活性化対策や街なかの賑わいの創出	19.3%
住民参画と協働の仕組みの整備	0.3%

3 第6期総合発展計画点検・進捗評価より

〔第1章〕参画と協働で未来を築くまちづくり

「施策」名	評価点	「施策」評価
1-1 協働のまちづくりの推進	78.0	B
1-2 コミュニティの育成	80.0	A
1-3 国際化、地域間交流の促進	86.0	A
1-4 北方領土対策の推進	83.3	A
1-5 人権の尊重と男女共同参画社会の形成	63.3	C
1-6 計画的な行政経営の推進	74.4	B



「〔第1章〕参画と協働で未来を築くまちづくり」を構成する6つの「施策」の進捗状況の評価は上記のとおりですが、「1-1 協働のまちづくりの推進」と「1-6 計画的な行政経営の推進」の進捗が比較的遅れており、「1-5 人権の尊重と男女共同参画社会の形成」の進捗が大きく遅れていると判断されます。

□「施策」毎の主な課題

1-1 協働のまちづくりの推進

- （中標津町自治基本）条例を知っている町民の数が少ないのが現状であり、条例をより多くの町民に浸透させるための周知啓発活動を充実させることが課題となっている。
- 意見提出を容易に行うことができる仕組みづくりや、各種審議会や各運営委員会などの委員構成について、町民の意見を政策に反映できるよう、これまで以上に町民からの公募を積極的に取り入れ、公募委員のいる審議会の割合を上げていく事が課題である。
- 情報発信の重要性を認識し受け取る側の視点に立った情報発信に努める必要がある。

1-2 コミュニティの育成

- 補助金は適切に執行されているが、町内会員の高齢化が進むことによる町内会組織の弱体化、人口減少による加入率の低下への対応が必要である。

- （コミュニティ）施設の老朽化が今後の課題である。町内会等が施設整備する際の補助については今後も支援の継続が必要。
- 産業・観光分野と連携した（中標津町の）知名度向上や、若年者の移住の推進に取り組む必要がある。

1-3 国際化、地域間交流の促進

- 留学生の居住及びアルバイト先の確保、外国人留学生に対する住民理解を深めることなどが必要となっている。日本語学校開設後においては、留学生の生活面のサポートや町民との交流の場を設けるなど、引き続き行政と町内協力団体が連携して行う必要がある。
- 多様な地域間交流は、町をPRする機会となっており、関係人口増加の観点から、ふるさと納税などの分野と連携した取り組みが必要である。

1-4 北方領土対策の推進

- 元島民の方々の高齢化に伴う担い手確保が課題だが、北方領土問題に対する町民の理解と関心を高めるための取り組みの継続が必要である。

1-5 人権の尊重と男女共同参画社会の形成

- 人権啓発などの活動は、人権侵害を未然に防ぐために必要な活動であることから、人権擁護委員会をはじめ関係機関や民間団体と連携して活動を推進する必要がある。
- 男女共同参画基本法について、町民、企業、団体の理解が浸透するよう、また、町民の意識の高揚に向けて、情報提供以上の取り組み内容について検討する必要がある。

1-6 計画的な行政経営の推進

- 多様化する行政ニーズに対応していくためには、組織や業務等の見直し、新たなシステムの導入等（AI やRPA 等）が課題となっているが、職員の確保が難しくなる時代の到来を見据えた対応も求められる。
- 近年の大規模事業の実施や、これに伴う借入で公債費が増加となるなどの要因で、多額の基金を取崩す結果となり、財政の健全化を示す将来負担比率や実質公債費比率は、目標の成果指標を達成することが出来ない状況であり、持続的な財政運営のための歳出改革に努める必要がある。
- （町税の）収納率は上昇したがまだ全道的に高いレベルではなく継続的な取り組みが必要である。
- （広域行政は）地域としての取り組みであることから、直接本町に恩恵があるものばかりではないが、継続して取り組む必要がある。

**（仮称）中標津町第7期総合計画基本構想における【生活環境分野】【都市基盤分野】
の基本目標（案）**

『（仮）利便性の高い住みやすいまちづくり』

空き地・空き家の利活用や、空港路線の維持・活用、地域交通のあり方の検討、国道・道道の整備促進、町道・上下水道・衛生施設の整備を行い、地域活性化に向けた官民協働の取り組みと、利便性の向上に向けた生活環境の整備を推進します。

また、災害に強いまちづくりを進めるため、防災意識の向上と、自助・共助・公助の連携による地域防災力の強化を推進します。

さらに、豊かな自然環境や景観を守り・活かす、環境保全の取り組みや景観意識の醸成を図ります。

※【生活環境分野】と【都市基盤分野】は第7期計画では一つの分野として整理する案としたいと考えています。

※参考

↑

〔第6期総合発展計画 基本構想（将来像実現のための基本目標）〕

安全・安心で快適なまちづくり 【生活環境分野】

あらゆる災害に強い防災まちづくり、防犯体制・交通安全体制の強化、消費者の保護など危機管理体制の一層の充実を図ります。

また、豊かな自然環境を誇るまちとして、環境保全に向けた施策を総合的に推進するとともに、循環型社会の形成に向けた取り組み、快適な町民生活に欠かせない社会資本の計画的な維持補修等を推進し、安全・安心でコンパクトなまちづくりを進めます。

※参考

〔参考：第6期総合発展計画 基本構想（将来像実現のための基本目標）〕

利便性のある調和のとれたまちづくり 【基盤分野】

調和のとれた適切な土地利用の誘導を図るとともに、これに基づく安全で快適な暮らしと産業振興を支える魅力あるコンパクトな市街地をめざした都市基盤整備や住宅施策を推進します。

また、国道・道道の整備促進、町道の整備、空港路線の維持・活用による道路・交通網の充実、情報環境の充実、市街地整備と連動した公園等の整備を図り、利便性のある調和のとれたまちづくりを進めます。

【町民会議委員の主な意見】

- ・タイトルの「利便性の高い住みやすいまちづくり」の「利便性の高い」は取り組む施策の一部の内容にしかかからないので。削除してはどうか。
- ・全体的に具体的施策の列挙が多くわかりにくいので、まとめた表現にすべき。
- ・取り組む施策の中でも特に重要なものを前半の文章に記載すべき。(空港路線・地域交通など)
- ・「豊かな自然環境や景観を守り・生かす」取組も、前半の文章に組み込み「住みやすいまちづくり」を進める意図を示すべき。

【生活環境分野】【都市基盤分野】

- 【生活環境分野】と【都市基盤分野】は意見が重なる部分が多いことから、2分野に分けず4班に分かれて協議（※グループワーク）し、意見を発表する形式としました。そのため、以下の1-1には班別発表を2分野に分けず掲載し、1-2以降で【生活環境分野】と【都市基盤分野】で意見を分けています。

1-1 まちづくり町民会議での発表意見

（※第9回まちづくり町民会議 20201104）

【発表内容】

〔A班〕

- 空港をもっと活用したい。空港の利用を、得意性を以って特産物等の空輸ができればと思う。
- コミュニティバスがあれば良い。東中の方面から、東部の方面までとか、曜日ごとに決めたりとか、台数があれば時間時間で区切ることができるのではないかな。児童・生徒の送迎の合間を利用してコミュニティバスとして活用すれば、運用企業もロスが出ず利益が出るのではないかな。
- 街中の東武の跡地を活用し、若い人がチャレンジできるような、例えば飲食店等の店を出し屋台村とすれば観光にも活用でき、賑わうと思う。
- 若い人のチャレンジに融資する制度があれば、この町で活用できるとポジティブに思ってもらえ、活用してもらえるのではないかな。
- 空き家はどんどん出てきているので、そのまま居抜きで引き継ぐような形で改装し、店づくりができれば良いのではないかな。
- ふらっとそこに行くコミュニティの場所ができれば良いと思う。

〔B班〕

- 公共交通網のバスは、必要だという声がありながらバスに乗っている人がいないという状況で、今のバスのあり方には限界があるのではないかな。そのため、デマンドバスとかコミュニティバスとか、陸運局で規制が緩くなってきているところもあるので、免許返納者の足を見つけ、不自由のないことができればと思う。
- 空港については、貨物便が増えれば人も物も動くと思う。
- 防災について、災害が起きたときの情報網を整備するべきではないかな。津波の多い町では防災行政無線が整備されている。中標津町にもそういうのがあると、町中から流れる情報ではなく、みんなに一定の情報が流れて災害時に役立つのではないかなと思う。

〔C班〕

- コンパクトなまちのインフラ整備というキーワードが出た。今後増えてくる空き家、空き店舗、空き地を活用すれば、道路とか、外に広げていく必要はない。活用出来れば、広げていくことにお金をかけずに済むと思う。
- 今後日本語学校もできてくるので、また、今も外国人が町内で働いているので、町の中の国際化について考えていった方が良い。

〔D班〕

- 安心できる町、優しい町ということで、今後高齢化で免許を返納する人が増えてくるので、郡部から中心部へバスを利用して移動するということになると、大変になるのではないかな。将来中標津でも人口減で空き家が増えることになるので、そういう場所をうまく使っ

て移住しやすい環境づくり、またそれに合わせて、そういう人達のコミュニティの場所、そういう人達がちょっと街中に住んでみることを体験したいことに対応できれば面白いのではないかな。また、都会から移住も促進できるのではないかな。

○中標津のコンパクトなまちを活かして、ポイントポイントに交通があると便利で良い。

○中標津の景観は町外の人から見れば外国のような景観で、素晴らしい景観を守っていききたい。

○高速通信の整備で、オンライン授業とか、距離があっても気軽に相談できるようなオンラインを活かした環境が構築できるのではないかな。

○企業誘致に関し、冬の間だけ企業が中標津オフィスという形で来て、かまくらの中で仕事をしてかまくらオフィスをやってみたり、夜空をうまくアピールして情報発信できると良いと思う。

○先般のブラックアウトの経験を活かし、防災意識の向上が必要ではないかな。そのようなときに町民全員が知ることができるような情報発信のあり方を整備していくことが必要ではないかな。

〔その他意見〕

○太陽光発電であるが、景観に負荷を与えてはいけないという前提がなければ、新しいものは造らない方が良い。そういうことを話す場所がひとつもない。（武田会長）

→景観負荷を与えないまちづくりという意見と思う。（事務局 係長）

1-2 意見の仕分け【生活環境分野】

各委員から出された意見を、分野の方向を検討する意見（基本構想の参考とするもの）と、付随する意見（基本計画等の取組みの参考とするもの）に分けると、以下のとおりです。

①基本構想に関連する意見

- | | |
|---------|-----------|
| ・ 空港の活用 | ・ 国際化 |
| ・ 景観を守る | ・ 防災意識の向上 |

②基本計画等の取組みの参考にするもの

- | | |
|----------------------|----------------|
| ・ デマンドバス、コミュニティバスの充実 | ・ コミュニティの場所づくり |
| ・ 災害に対応した情報網の整備 | ・ |

【キーワード】

- 景観負荷を与えないまちづくり

2-1 まちづくり町民アンケート調査結果より【生活環境分野】

□問 16 身近な生活環境のなかで、今後整備充実が必要な施設（回答割合上位項目）

高齢者福祉施設	35.3%
道路の改良、舗装	32.1%
街路灯・防犯灯	23.3%

□問 18 自然や生活環境保全に必要な取り組み（回答割合上位項目）

ごみ減量化・リサイクル活動の支援	35.2%
不法投棄など取り締まりの強化	33.2%
環境美化活動の支援	23.8%

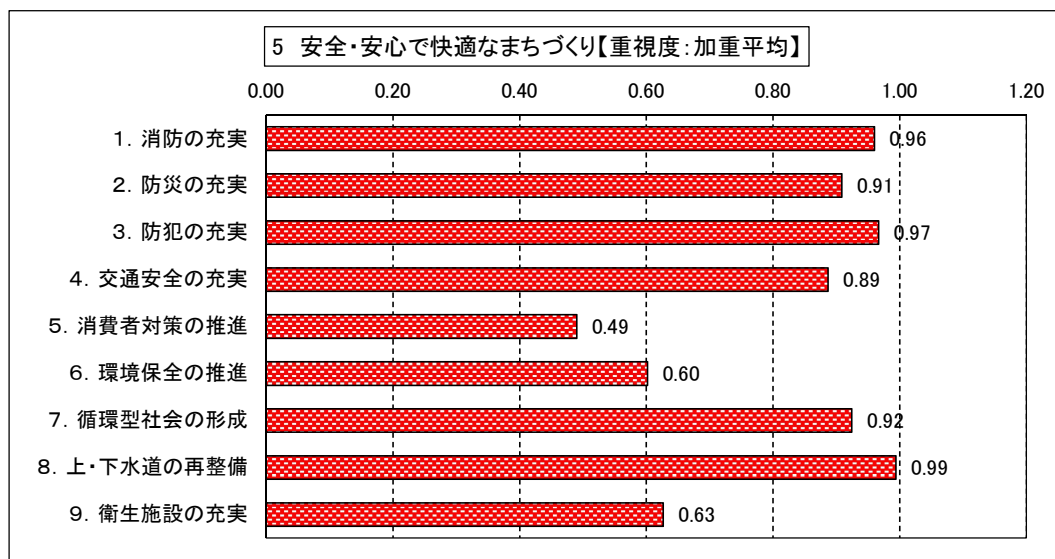
□問 20 インターネット社会の対応に必要な取り組み（回答割合上位項目）

情報弱者への対応	37.1%
情報通信基盤（光ファイバーなど）の整備	26.1%
個人情報保護対策等セキュリティ強化	22.3%

□問 23 町の消防・防災対策に必要な取り組み（回答割合上位項目）

災害時の情報連絡体制の充実	46.8%
防災施設（避難場所や消火栓など）の整備充実	24.4%
河川など災害発生危険箇所の整備	23.2%

□問 70 各分野における重要度（加重平均値）



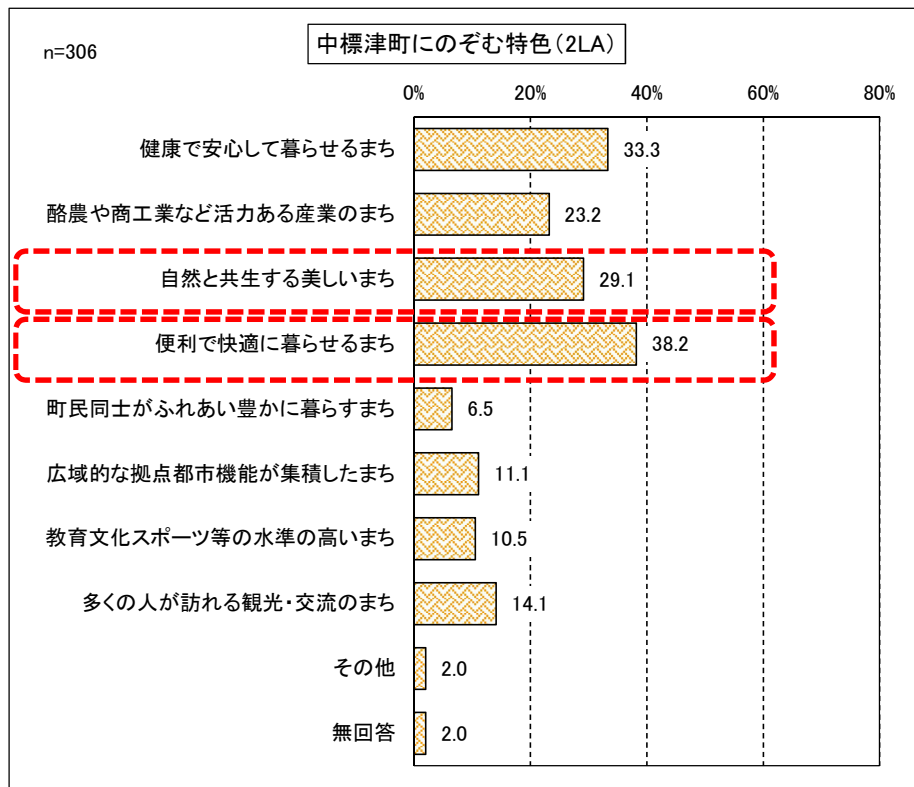
□問 64 将来人口目標達成に向けた取り組み（自由意見）

- 新たなイベントづくり
- 姉妹都市との交流イベントの実施
- 交流事業を進展させる施設の整備
- 移住体験の充実
- UターンやIターンしたくなるような魅力ある制度づくり

- 外国人の定住化を見据えた取組
- 情報社会に取り残されない情報環境の整備

2-2 まちづくり中高生アンケート調査結果より【生活環境分野】

□問6 中標津町に望む特色



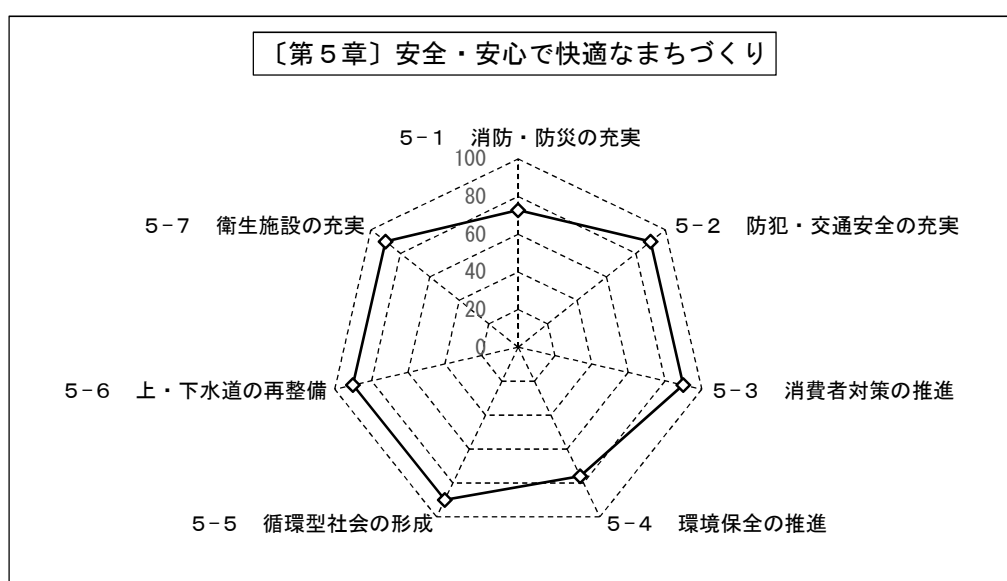
□問19 中標津町の活力を高めるうえで期待される政策

農林業、既存産業の振興	21.6%
雇用を生み出す新産業の創出	8.2%
地域ぐるみで子どもたちを守り、育てる子育て支援	19.3%
義務教育における学力向上対策	16.3%
高校等の教育の充実	18.6%
活動の中心となる人材を育成する特色ある社会教育	6.5%
多世代が共に暮らせる福祉、医療の充実	11.8%
防犯、防災など安心できる暮らしの環境の充実	13.4%
道路、交通など発展への基盤整備	28.1%
地域資源を活かした観光・交流の推進	8.8%
リサイクル、省エネルギーなど地球環境対策	7.2%
自然環境の保全	21.9%
情報発信のための情報通信技術基盤の充実	6.2%
商業の活性化対策や街なかの賑わいの創出	19.3%
住民参画と協働の仕組みの整備	0.3%

3 第6期総合発展計画点検・進捗評価より【生活環境分野】

〔第5章〕安全・安心で快適なまちづくり

「施策」名	評価点	「施策」評価
5-1 消防・防災の充実	72.8	B
5-2 防犯・交通安全の充実	90.0	A
5-3 消費者対策の推進	90.0	A
5-4 環境保全の推進	76.0	B
5-5 循環型社会の形成	90.0	A
5-6 上・下水道の再整備	90.0	A
5-7 衛生施設の充実	90.0	A



「〔第5章〕安全・安心で快適なまちづくり」を構成する7つの「施策」の進捗状況の評価は上記のとおりですが、「5-1 消防・防災の充実」と「5-4 環境保全の推進」の進捗が比較的遅れていると判断されます。

□「施策」毎の主な課題

5-1 消防・防災の充実

- 大規模化、複雑化する災害事案に対応するため、計画的な消防車両の更新、消防水利の整備、消防団員の定数確保や体制強化が、引き続き必要となっている。
- 来訪者や外国人を含めた災害情報の伝達手段を強化する等の対応が必要となっている。
- 災害に強いまちづくりを進めるため、災害に対する住民意識の高揚や、自助・共助・公助の有機的な連携による地域防災力の向上を目指す。

5-2 防犯・交通安全の充実

- 今後も、防犯に関する情報を関係機関・団体に提供して防犯意識の高揚を図り、犯罪から町民を守る防犯活動を推進する必要がある。
- 交通安全指導員の高齢化が進んでおり、今後のなり手不足が課題である。今後も、交通安全協会と連携して、継続して交通安全意識の高揚を図る必要がある。

5-3 消費者対策の推進

- 今後ますます多様化・複雑化する事例に対応するため、消費者協会と町消費生活センターの連携により、一層の消費者の意識向上を図ることが必要である。

5-4 環境保全の推進

- 近年世界規模で提唱されているSDGsの考えを組み込んだ取り組みが必要であるため、環境審議会の開催により、水質調査以外にも環境保全に向けた取組等を検討し、地球温暖化防止や省エネルギー対策など必要な施策等を実施する必要がある。
- 森づくりや地域の緑化事業への取り組みは継続する必要がある。
- 今後は、町の省エネルギーに対する方針を決定し、より具体的な施策を推進していく必要がある。

5-5 循環型社会の形成

- ごみの分別排出の徹底及び資源ごみのリサイクルの充実を図ることで、今後も継続してごみの減量化を推進する必要がある。焼却施設については施設の老朽化により基幹改良工事に膨大な費用を要する可能性があり、対策の検討が必要である。また、働き方改革の推進等によるごみステーション化は往年の課題となっており、全町的な取組みとなるよう推進していく必要がある。
- 依然として多くの不法投棄があることから、継続して不法投棄防止対策を行う必要がある。

5-6 上・下水道の再整備

- 水洗化率は高止まりしている状況であり、更なる水洗化率の向上は容易ではないが、引き続き啓発活動を実施する必要がある。
- （下水道施設は）引き続き計画的な施設の更新、再整備を実施するとともに、市街地全域での不明水対策調査・修繕を行い、下水道における有収率の改善を図る必要がある。
- 引き続き事務経営の効率化に向けた検討を進める必要がある。

5-7 衛生施設の充実

- 残骨灰処理の再検証が課題となっている。今後も適切な管理運営を図り負担金の抑制に努める必要がある。

1-2 意見の仕分け【都市基盤分野】

各委員から出された意見を、分野の方向を検討する意見（基本構想の参考とするもの）と、付随する意見（基本計画等の取組みの参考とするもの）に分けると、以下のとおりです。

①基本構想に関連する意見

- ・ 街中の跡地を活用
- ・ コンパクトなまちのインフラ整備
- ・ 高速通信の整備

②基本計画等の取組みの参考にするもの

- ・ 太陽光発電の抑制（景観対策）
- ・ 空き家、空き店舗、空き地の活用

【キーワード】

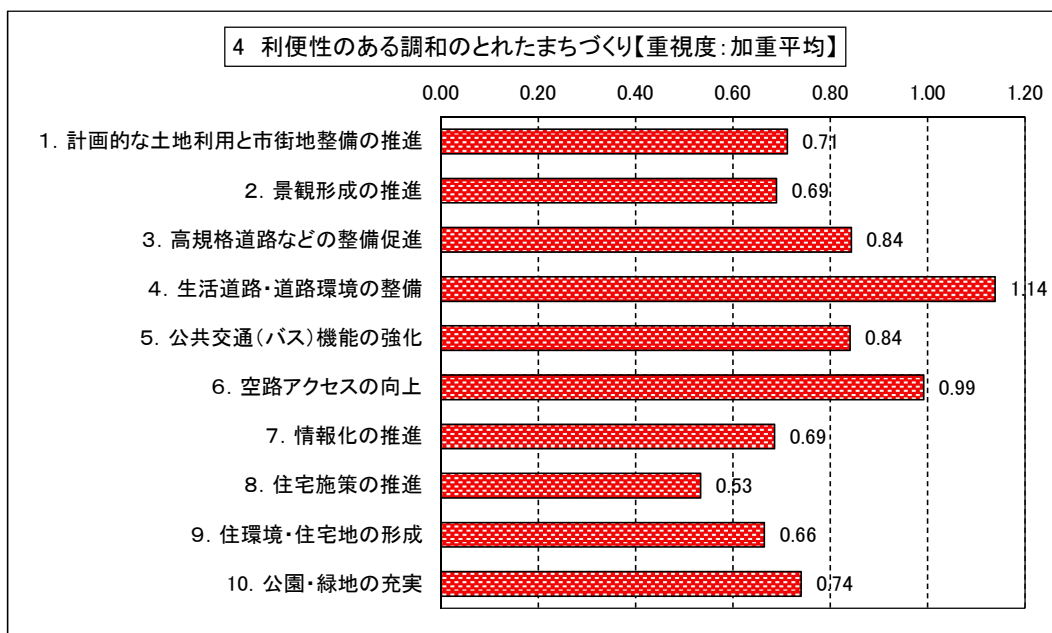
—

2-1 まちづくり町民アンケート調査結果より【都市基盤分野】

□問 13 今後必要な道路、交通手段（回答割合上位項目）

路線バスの利便性向上	45.3%
地区内の身近な生活道路の整備充実	36.2%
中標津空港の航路の充実	30.2%

□問 70 各分野における重要度（加重平均値）

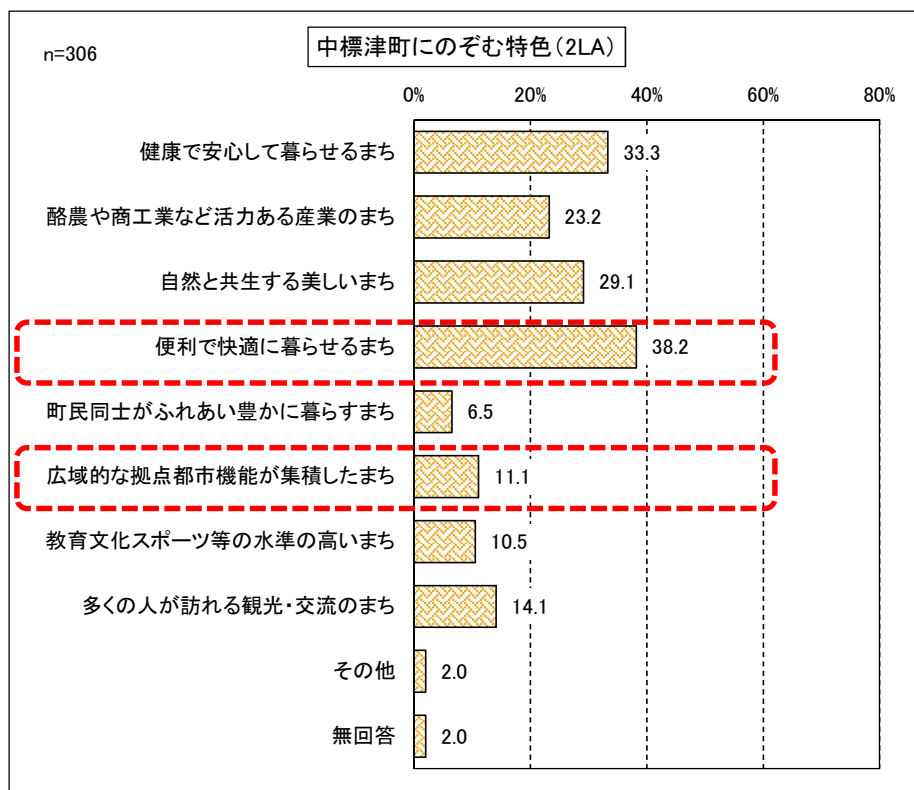


□問 64 将来人口目標達成に向けた取り組み（自由意見）

- 中標津空港の便の増便
- 交通機関の充実
- 生活道路の整備
- 空き家対策
- 宅地（市街地）対策

2-2 まちづくり中高生アンケート調査結果より【都市基盤分野】

□問 6 中標津町に望む特色



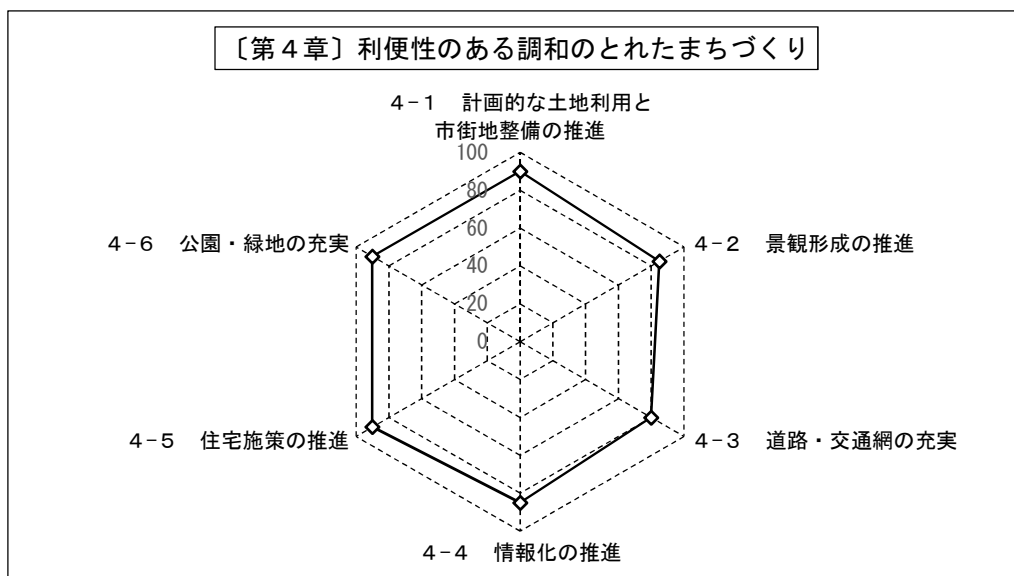
□問 19 中標津町の活力を高めるうえで期待される政策

農林業、既存産業の振興	21.6%
雇用を生み出す新産業の創出	8.2%
地域ぐるみで子どもたちを守り、育てる子育て支援	19.3%
義務教育における学力向上対策	16.3%
高校等の教育の充実	18.6%
活動の中心となる人材を育成する特色ある社会教育	6.5%
多世代が共に暮らせる福祉、医療の充実	11.8%
防犯、防災など安心できる暮らしの環境の充実	13.4%
道路、交通など発展への基盤整備	28.1%
地域資源を活かした観光・交流の推進	8.8%
リサイクル、省エネルギーなど地球環境対策	7.2%
自然環境の保全	21.9%
情報発信のための情報通信技術基盤の充実	6.2%
商業の活性化対策や街なかの賑わいの創出	19.3%
住民参画と協働の仕組みの整備	0.3%

3 第6期総合発展計画点検・進捗評価より【都市基盤分野】

〔第4章〕利便性のある調和のとれたまちづくり

「施策」名	評価点	「施策」評価
4-1 計画的な土地利用と市街地整備の推進	90.0	A
4-2 景観形成の推進	85.0	A
4-3 道路・交通網の充実	80.0	A
4-4 情報化の推進	85.0	A
4-5 住宅施策の推進	90.0	A
4-6 公園・緑地の充実	90.0	A



「〔第4章〕利便性のある調和のとれたまちづくり」を構成する6つの「施策」の進捗状況の評価は上記のとおりですが、すべての「施策」が順調な進捗であると判断されます。

□「施策」毎の主な課題

4-1 計画的な土地利用と市街地整備の推進

- 今後の人口減少や高齢化の動向を踏まえ、町全体の土地利用の推進を図るため、空き家・空き地、公共交通の施策に取り組む必要がある。
- 今後の人口減少を見据え、既存都市施設の維持管理が課題となっている。また、中心市街地の空き地が目立ち始めていることから、中心市街地土地利用について検討が必要。
- 引き続き町有財産の適切な維持管理を行うとともに、未利用財産利活用基本方針を策定し、町有財産の計画的な貸付と売払い及び利活用と保全を行う必要がある。

4-2 景観形成の推進

- 今後は、景観計画に対する町民へ意識の醸成を図り、どのように活動していくかが課題となっている。
- 市街地景観について改善すべきという認識が出始めているほか、歴史的景観という観点も今後の重要な視点である。

4-3 道路・交通網の充実

- 引き続き国道や道道の整備促進に向け、関係機関への要望や連絡調整会議等を通じた情報収集、情報交換、連絡調整を図る必要がある。
- 舗装率の更なる向上を図り、安全で便利な道路環境づくりを進める必要がある。
- 道路施設の老朽化や自然災害の度重なる発生により道路の維持管理は益々重要となっている。
- 地域の公共交通の在り方について、検討を進める必要がある。
- 空港機能の維持・整備が促進され地域の活性化に繋がるよう、北海道など関係機関と連携しながら特色のある事業展開が必要である。

4-4 情報化の推進

- 今後運用が開始される 5G 通信への対応を検討する必要がある。
- Society5.0 時代を向かえ、AI・RPA 等の ICT を活用した「スマート自治体」の実現を目指すことが今後は必要となっている。

4-5 住宅施策の推進

- 人口減少を見据え、適正な公営住宅の管理戸数を見極め、老朽化した公営住宅の建替え、用途廃止も含めた検討をする必要がある。
- 人口減少の観点から空き家の利活用や、空き家を発生させない取り組みが必要である。

4-6 公園・緑地の充実

- 町の管理する公園を適切に維持管理し、緑地は地域のコミュニティの場として利用促進を図る必要がある。